

Oracle® GoldenGate
11g リリース 2 (11.2.1.0.28)
リリース・ノート

B70208-03 (原本部品番号: E36358-03)
2016 年 5 月

Copyright © 2012, 2016 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

最終リリースの通知	5
11.2.1 の新機能	6
データベース固有の拡張機能	6
DB2 for i	6
DB2 z/OS	7
MySQL	7
Oracle	8
PostgreSQL	8
SQL Server	9
Sybase	9
その他の拡張機能	9
全般	9
列変換関数	10
ユーザー・イグジット	10
パラメータ	12
コマンド	14
ユーティリティ	15
ドキュメントの強化および訂正	16
非推奨になったパラメータおよびコマンド	16
ドキュメントの追加事項	16
ドキュメントの正誤表	18
インストールおよびアップグレード	21
修正された問題	21
バージョン 11.2.1.0.28 – 2015 年 1 月 30 日	21
バージョン 11.2.1.0.27 – 2014 年 10 月 13 日	22
バージョン 11.2.1.0.26 – 2014 年 9 月 11 日	23
バージョン 11.2.1.0.25 – 2014 年 8 月 6 日	23
バージョン 11.2.1.0.24 – 2014 年 7 月 9 日	23
バージョン 11.2.1.0.23 – 2014 年 6 月 6 日	24
バージョン 11.2.1.0.22 – 2014 年 5 月 8 日	25

バージョン 11.2.1.0.21 – 2014 年 4 月 14 日	26
バージョン 11.2.1.0.20 – 2014 年 3 月 14 日	27
バージョン 11.2.1.0.19 – 2014 年 2 月 21 日	28
バージョン 11.2.1.0.18 – 2014 年 2 月 4 日	28
バージョン 11.2.1.0.17 – 2014 年 1 月 14 日	29
バージョン 11.2.1.0.16 – 2013 年 12 月 17 日	29
バージョン 11.2.1.0.15 – 2013 年 11 月 26 日	30
バージョン 11.2.1.0.14 – 2013 年 11 月 5 日	30
バージョン 11.2.1.0.13 – 2013 年 10 月 11 日	31
バージョン 11.2.1.0.12 – 2013 年 9 月 20 日	31
バージョン 11.2.1.0.11 – 2013 年 9 月 10 日	32
バージョン 11.2.1.0.10 – 2013 年 8 月 22 日	32
バージョン 11.2.1.0.9 – 2013 年 8 月 13 日	32
バージョン 11.2.1.0.8 – 2013 年 7 月 30 日	32
バージョン 11.2.1.0.7 – 2013 年 7 月 16 日	32
バージョン 11.2.1.0.6_03 - 2013 年 6 月 24 日	33
バージョン 11.2.1.0.6_02 - 2013 年 6 月 10 日	33
バージョン 11.2.1.0.6_01 - 2013 年 5 月 28 日	34
バージョン 11.2.1.0.6 - 2013 年 4 月 24 日	35
バージョン 11.2.1.0.5_02 – 2013 年 3 月 18 日	36
バージョン 11.2.1.0.5 - 2013 年 1 月 15 日	37
バージョン 11.2.1.0.4_02 - 2012 年 12 月 24 日	37
バージョン 11.2.1.0.4_01 - 2012 年 10 月 30 日	38
バージョン 11.2.1.0.4 – 2012 年 10 月 15 日	38
バージョン 11.2.1.0.3 – 2012 年 8 月 29 日	39
バージョン 11.2.1.0.2 – 2012 年 7 月 31 日	41
バージョン 11.2.1.0.1 – 2012 年 5 月 7 日	42
バージョン 11.2.1.0.0 – 2012 年 2 月 9 日	43

My Oracle Support の利用	44
-----------------------------	----

最終リリースの通知

Oracle GoldenGate for Windows and UNIX 11g リリース 2 (11.2.1.0.28)は、Oracle Database Oracle 10g をサポートする最後のバージョンです。このソフトウェアは、My Oracle Support の Web サイト(support.oracle.com)からダウンロードでき、現状のままで使用します。あらゆる最終リリースと同様、拡張機能やバグ修正で変更されることはありません。

11.2.1 の新機能

データベース固有の拡張機能

DB2 for i

Oracle GoldenGate に DB2 for i のサポートが導入されました。このサポートには、DB2 for i のジャーナルからのネイティブ取得や、リモート Windows/Linux マシンから DB2 for i ターゲットへの ODBC を介した配信などがあります。Oracle GoldenGate は、ソースの DB2 for i データベースから、サポートされている他のタイプのデータベースへのレプリケートも行います。インストールと構成については、新しい『Oracle GoldenGate DB2 for i インストールおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

DB2 for i をサポートするために、次のコマンドが更新されています。

- **ADD TRANDATA:** DB2 for i では、ADD TRANDATA を使用してデータのジャーナル処理を開始します。ADD TRANDATA コマンドは、STRJRNPf をコールし、必須ジャーナル・イメージ属性であるレコード・イメージ(IMAGES): *BOTH が STRJRNPf コマンドで設定されることを保証するため、表のジャーナル処理を開始する方法として推奨されます。SQL スキーマと表の名前、またはネイティブ・ライブラリとファイル名を指定します。DEFAULTJOURNAL コマンドを使用してデフォルト・ジャーナルを設定する場合、JOURNAL オプションを省略できます。使用しない場合は必須です。

構文:

```
ADD TRANDATA {  
  <schema.table> [JOURNAL <library/journal>] |  
  <library/file> [JOURNAL <library/journal>]  
}
```

- 新規コマンド DEFAULTJOURNAL を使用すると、JOURNAL キーワードを使用するかわりに、ADD TRANDATA コマンドに対する複数の表またはファイルのデフォルト・ジャーナルを設定できます。ADD TRANDATA を発行する前に、このコマンドを発行します。ジャーナルを指定しない ADD TRANDATA コマンドでは、DEFAULTJOURNAL のジャーナルを使用するものとされます。デフォルト・ジャーナルの使用を解消するには、CLEAR オプションを使用します。DEFAULTJOURNAL の現在の設定を表示するには、引数を指定せずにコマンドを発行します。

構文:

```
DEFAULTJOURNAL [<library/journal>] [CLEAR]
```

- **ADD EXTRACT:** 次の ADD EXTRACT の開始位置が DB2 for i に対してサポートされます。

```
BEGIN {NOW | yyyy-mm-dd[:hh:mi:[ss[.cccccc]]] | EOF | SEQNO <sequence  
number>}
```

EOF オプションでは、次のレコードが書き込まれるジャーナルの末尾から取得を開始します。

SEQNO <sequence number> オプションでは、システム・シーケンス番号から(またはその直後から)取得を開始します。システム・シーケンス番号は、20 桁までの長さの 10 進数です。

- **ALTER EXTRACT:** 次の ALTER EXTRACT オプションが DB2 for i に対してサポートされます。

```
ALTER EXTRACT {BEGIN {NOW | yyyy-mm-dd [hh:mi:[ss[.cccccc]]] [JOURNAL  
<journal_library>/<journal_name> [JRNRCV  
<receiver_library>/<receiver_name>]] |
```

```
, EOF [JOURNAL <journal_library>/<journal_name> [JRNRCV  
<receiver_library>/<receiver_name>]] |
```

```
, SEQNO <seqno> [JOURNAL <journal_library>/<journal_name> [JRNRCV  
<receiver_library>/<receiver_name>]]}
```

- 次のバージョンの DB2 for i がサポートされます。

V5r4: PASE 環境 - 5722-SS1 オプション 33

V6.1: PASE 環境 - 5761-SS1 オプション 33

V7.1: PASE 環境 - 5770-SS1 オプション 33

v11.2.1.0.6 から、次の新しいパラメータが用意されています。

PASE セッションの CCSID が物理ファイルの名前と互換性がない場合は、PRM ファイルを UTF-8 で作成する必要があります。

システムの CCSID と使用されている名前の CCSID が異なる場合、NAMECCSID パラメータを PRM ファイルに指定する必要があります。このパラメータは、PRM ファイル内のすべての名前に対して有効です。

NAMECCSID <有効な IBM i CCSID>

PRM ファイルを作成して UTF-8 で使用する場合は、次の行を PRM ファイルの 1 行目に指定することをお勧めします。

CHARSET UTF-8

IBM i エディタを使用して UTF-8 のパラメータ・ファイルを作成するには、SEU で、表名に使用が必要がある CCSID はすべて使用して、ソース物理ファイルの PRM ファイルを編集できます。編集後、次のコマンドを PASE シェルと、OGG インストール・ディレクトリ内から実行します(たとえば、変換対象のメンバーは CCSID 1026 内の MYLIB/MYFILE(MYMBR)にあり、UTF-8 は CCSID 1208 であるとして)。

```
qsh -c "cat /QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBR | iconv -f 1026 -t 1208 >  
dirprm/mymbr.prm"  
setccsid 1208 dirprm/mymbr.prm
```

DB2 z/OS

z/OS 上の Extract 用のデフォルトの文字変換が変更されました。バージョン 11.2 以降、ASCII コード化された表の列データは、デフォルトで EBCDIC に変換されます。バージョン 11.2 より前のバージョンでは、デフォルトでは変換は行われませんでした。また、バージョン 11.2 では、Extract のデータ・ポンプで文字変換がサポートされなくなりました。これには、データ・ポンプから出力される証跡データだけでなく、入力される証跡データの変換も含まれます。

MySQL

MySQL Cluster がサポートされるようになりました。GoldenGate に、MySQL Cluster 7.1 および 7.2 のサポートが導入されました。このサポートを提供している Oracle GoldenGate for MySQL 5.x と同じインストールを使用できます。このサポートには、MySQL Cluster からのネイティブの取得と MySQL Cluster への配信が含まれます。Oracle GoldenGate は、ソースの MySQL Cluster データベースから、サポートされている別のデータベースへのレプリケートも行えます。インストールと構成については、新しい『Oracle GoldenGate MySQL インストレーションおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

MySQL 用に次のものがサポートされるようになりました。

- WARNLONGTRANS パラメータ
- FORCETRANS、SHOWTRANS、SKIPTRANS を使用する SEND EXTRACT コマンド

Oracle

Oracle データベースを使用する場合、統合取得モードで Extract が使用できるようになりました。Extract は、Oracle データベースのログ・マイニング・サーバーと統合され、論理変更レコード(LCR)の形でこのサーバーから変更データを受け取ります。Extract は、ローカルまたはダウンストリームのマイニング・データベースから取得するように構成できます。統合取得はデータベースと完全に統合されているので、Oracle RAC、ASM、および TDE を使用するための追加設定が不要です。また、これは従来型の取得よりも多くのデータ型や記憶域のタイプをサポートし、より透過的なサポートを実現しています。利点がさらに加わります。「パラメータ」および「コマンド」も参照してください。統合取得を使用して、Integrated Extract 11.2.x 用の 11.2.0.3 データベース固有バンドル・パッチを適用した 11.2.0.3 以降の Oracle RDBMS バージョンから変更を取得できます(ドキュメント ID 1411356.1)。ダウンストリーム・マイニング・デプロイメントでの 10.2.0.4 以降の Oracle バージョンからの変更の取得にも使用できます。

Extract は現在も、サポートしている任意の Oracle バージョンの REDO ログから直接取得するように構成することが可能です。このような構成は、従来型取得モードと呼ぶことになりました。このモードでは、Extract が、Oracle RMAN との統合によりログ保存を管理します。この機能の唯一の変更点として、ADD EXTRACT によるログ保存の有効化が自動的に行われなくなりました。まず DBLOGIN を発行し、次に、LOGRETENTION オプションを使用して REGISTER EXTRACT を発行する必要があります。ログ保存を無効にするには、まず DBLOGIN を発行し、次に、LOGRETENTION オプションを使用して UNREGISTER EXTRACT を発行する必要があります。ログ保存がデフォルトであることは変わりませんが、ADD EXTRACT の前に REGISTER EXTRACT が発行されない場合、エラーが生成されます。他の機能はすべて変更ありません。

その Replicat で最後に完了したトランザクションの SCN(列名 LOG_CMPLT_CSN)が含まれるようにチェックポイント表が変更されました。これは、リカバリやターゲット・システムに適用済の証跡内のデータのスキップに使用できます。

11.2.1.0.15 の時点で、Extract はスナップショット・スタンバイ・データベースで、統合アップストリーム・モード、統合ダウンストリーム・モードおよび従来型モードで実行できるようになりました。次の 2 つの新しい TRANLOGOPTIONS パラメータが導入されました。

- MINEFROMSNAPSHOTSTBY: スナップショット・スタンバイ・サポートを有効にします。
- NOMINEFROMSNAPSHOTSTBY: スナップショット・スタンバイ・サポートを無効にします(デフォルト)。

PostgreSQL

Oracle GoldenGate に PostgreSQL のサポートが導入されました。このサポートには、他のタイプのデータベースから PostgreSQL データベースへのデータのマッピング、操作、フィルタリングおよび配信などがあります。Oracle GoldenGate は、PostgreSQL から他の PostgreSQL データベースまたは他の種類のデータベースへのデータの取得はサポートしません。PostgreSQL の場合、INSTALL ユーティリティに 2 つのオプションが追加されます。

- ADDDRIVERS: ODBC アドミニストレータを使用して DSN を作成できるよう、PostgreSQL ODBC ドライバを Windows レジストリにインストールします。
 - DELETEDRIVERS: PostgreSQL ODBC ドライバに関連する Windows レジストリ情報を削除します。

インストールと構成については、新しい『Oracle GoldenGate PostgreSQL インストレーションおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

SQL Server

SQL Server 用に次のものがサポートされるようになりました。

- WARNLONGTRANS パラメータ
- FORCETRANS、SHOWTRANS、SKIPTRANS を使用する SEND EXTRACT コマンド

Sybase

Sybase 用に次のものがサポートされるようになりました。

- WARNLONGTRANS パラメータ
- FORCETRANS、SHOWTRANS、SKIPTRANS を使用する SEND EXTRACT コマンド

その他の拡張機能

全般

- GoldenGate では、コマンドおよびパラメータで Advanced Encryption Security(AES)をサポートすることにより、TCP/IP 上のパスワード、証跡、およびデータ転送の暗号化をサポートされるようになりました。BLOWFISH 暗号化は現在も使用できますが、下位互換性に対応するためにのみ使用することを推奨します。AES 暗号化は、9i 以前の Oracle データベースに対してはサポートされないことに注意してください。それらのデータベースには、Blowfish を使用します。AES が必要な場合、データベースを Oracle 10g 以上にアップグレードする必要があります。
- GoldenGate は、Manager インスタンス当たり、最大で 5,000 の同時 Extract および Replicat プロセスをサポートされるようになりました。
- デフォルトの証跡サイズが 100MB まで拡大されました。
- GoldenGate では、組込みの競合検出および解決ルーチンを提供することにより、双方向のマルチマスター構成をサポートされるようになりました。トランザクション・ログから変更前イメージを取得し、Replicat の WHERE 句で変更前イメージが使用される列を指定し、競合のタイプ、解決方法、および列グループを指定するための、新しいパラメータが提供されます。競合を生み出すレコードは、例外 MAP 文が存在する場合自動的にその文に送られるので、REPERROR を EXCEPTION に設定する必要はありません。CDR をサポートする新しいパラメータについては、「パラメータ」を参照してください。
- GoldenGate は、機能強化により、データおよびオブジェクト名のグローバル化をサポートします。このサポートの内容は次のとおりです。
 - ソースおよびターゲットのデータベースのキャラクタ・セット・エンコーディングによって決定される、ネイティブ言語での Oracle GoldenGate プロセス・カタログ、スキーマ、表および列の名前。この処理はパラメータ・ファイルとコマンド・インタプリタに拡張され、これらはオペレーティング・システム・ロケールに従って処理されます。これらのオブジェクトは、クライアント・インタフェース全体、コンソール上、およびファイル内で、ネイティブ言語形式で表示されます。
 - Oracle GoldenGate の適用プロセス(Replicat)は、データが文字の列タイプに含まれる場合に、あるキャラクタ・セットから別のキャラクタ・セットへのデータの変換をサポートします。キャラクタ・セット変換のサポートは、TABLE または MAP 文の COLMAP または USEDEFAULTS 句で実行されるのと同様に、列間のマッピングに限定されます。これは、列変換関数、SQLEXEC または TOKENS 機能ではサポートされません。

- Oracle GoldenGate は、コンソール、コマンドライン入力および出力、FORMATASCII、FORMATSQL、FORMATXML パラメータ、パラメータ・ファイル、データ定義ファイル、エラー・ログ、プロセス・レポート、破棄ファイルなどのテキスト・ファイル、および Oracle GoldenGate ユーザーが Oracle GoldenGate 環境の構成、実行および監視に使用するその他の判読可能ファイルに対して、ホスト・オペレーティング・システムのデフォルトのキャラクタ・セットでのテキスト入力および出力をサポートします。
- GoldenGate は大/小文字を認識するようになり、データベースの大/小文字が区別される場合、またはデータベースで大/小文字の区別に二重引用符が使用される場合に、大/小文字を区別した比較を実行します。システムまたはデータベースで大/小文字が区別されない場合、Oracle GoldenGate は、マッピングの目的で必要な場合に、大/小文字が区別されない名前を格納時の大/小文字に変換します。パラメータ・ファイルでの大/小文字を区別したオブジェクト名の指定の詳細は、Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。
- 一重引用符と二重引用符の用法を逆にする新しい USEANSIQUOTES パラメータが追加されました。現在、リテラル・テキストは二重引用符で囲んで指定されます。大/小文字の区別が必要な場合、USEANSIQUOTES は二重引用符がリテラル文字列、一重引用符がオブジェクト名を表す SQL-92 のルールを適用します。
- GoldenGate では、単一の文字の置換えに疑問符(?)ワイルドカードの使用をサポートするようになりました。
- TCP/IP コンポーネントに対して、次のことを目的とした変更が加えられました。
 - IPv6 インターネット・プロトコルをデフォルトでサポートします。ソース・システムまたはターゲット・システムで IPv6 がサポートされていない場合、Oracle GoldenGate は IPv4 に切り換えます。USEIPV6 という新しいパラメータを使用すると、TCP/IP 接続にインターネット・プロトコル・バージョン 6(IPv6)が強制的に使用されるようになり、IPv4 フォールバックの手順をスキップすることができます。
 - ポート割当ての信頼性をさらに向上します。DYNAMICPORTLIST から Manager によって送信されたリストに基づいて、Collector がポートを探しバインドするようになりました。以前は、Manager がこのタスクを実行していました。この機能拡張はユーザーに対して透過的です。

列変換関数

- 新しい@DDL 関数は、DDL レコード内のオブジェクトの名前と所有者、影響を受けたオブジェクトのタイプ、操作タイプ、DDL 文の最初の 200 文字を返します。
- @GETENV の新しいオプション STATS および DELTASTATS は、1 つまたは複数の表の DDL および DML 統計を返します。

ユーザー・イグジット

- ユーザー・イグジットのロジックは、次のものに対するグローバル化・サポートを提供します。
 - カタログ名、スキーマ名、表名、列名など、キャラクタ・ベースのデータベース・メタデータ
 - CHAR、VARCHAR2、CLOB、NCHAR、NVARCHAR2、および NCLOB などキャラクタ・タイプの列の値と、文字列ベースの数値、日時、および期間。
 - このサポートを利用するには、userdecs.h バージョン 3 を使用するため、ユーザー・イグジットの再コンパイルを行う必要があります。
- ユーザー・イグジットに対するグローバル化の機能拡張は次のとおりです。
 - ユーザー・イグジットが独自のセッション・キャラクタ・セットを持ちます。これは、新しいコールバック関数 GET_SESSION_CHARSET および SET_SESSION_CHARSET によって定義されま

す。コール元プロセスは、ユーザー・イグジットのキャラクタ・セットがそのプロセスのホストのコンテキストと異なる場合、キャラクタ・セット間の変換を実行します。

- ユーザー・イグジットでこのサポートを有効にするために、新しい **GET_DATABASE_METADATA** コールバック関数コードが用意されています。この関数を使用すると、ユーザー・イグジットは、これをコールするプロセス(**Extract**、**データ・ポンプ**、**Replicat**)とやりとりするキャラクタ・タイプのデータのロケールおよびキャラクタ・セットなど、データベース・メタデータを取得することができます。また、これは、オブジェクト名の大/小文字の区別や、引用符付きの名前と引用符なしの名前がデータベースによってどのように扱われるか、オブジェクト名がどのように保存されるかを返します。
- **Oracle GoldenGate** は、データベース・オブジェクト名のメタデータをチェックするため、ユーザー・イグジットによってコールすることが可能な新しいマクロをいくつか用意しています。
- 入力パラメータ **ascii_or_internal** が、データの文字形式をより正確に記述できるように **column_value_mode** となりました。これでは、次の値が新規追加または名称変更されています。
 - **EXIT_FN_RAW_FORMAT**(前の **EXIT_FN_INTERNAL_FORMAT**)は正規形式を指定します。
 - **EXIT_FN_CHAR_FORMAT**(前の **EXIT_FN_ASCII_FORMAT**)は ASCII 形式を指定します。
 - **EXIT_FN_CNVTED_SESS_FORMAT**(新規)はユーザー・イグジットのキャラクタ・セットを指定します。
- 次の結果コードが新たに追加されました。
 - **EXIT_FN_RET_SESSION_CS_CNV_ERR: ULIB_ERR_INVALID_CHAR_FOUND** エラーが返され、キャラクタ・セット変換ルーチンが失敗しました。
 - **EXIT_FN_RET_NO_SRCDB_INSTANCE**: ソース・データベースが見つかりませんでした。
 - **EXIT_FN_RET_NO_TGTDB_INSTANCE**: ターゲット・データベースが見つかりませんでした。
 - **EXIT_FN_RET_BAD_DATE_TIME**: 日付、タイムスタンプ、または期間タイプの列に、無効な日付または時刻の値が含まれています。
 - **EXIT_FN_RET_BAD_NUMERIC_VALUE**: 数値タイプの列に、無効な数値が含まれています。
- ユーザー・イグジットのその他の機能拡張は次のとおりです。
 - **RECOVERYOPTIONS** モードが **APPEND** のとき(デフォルト)、新たに **EXIT_CALL_ABORT_TRANS** コール・タイプが有効になります。これによって、ユーザー・イグジットは、ライター・プロセスが停止した際に不完全なままとなっていたトランザクションを中断または破棄し、その後、前の完了したトランザクションの開始時点までリカバリして処理を再開することができます。
 - **EXIT_CALL_BEGIN_TRANS** コール・タイプは、データ・ポンプによって読み込まれるトランザクションの **BEGIN** レコードの直前か、**Replicat** トランザクションの開始直前にコールされます。
 - **EXIT_CALL_END_TRANS** コール・タイプは、データ・ポンプによって読み込まれるトランザクションの **END** レコードの直後か、**Replicat** トランザクションの最後のレコードの直後にコールされます。

- 完全修飾表名の各部分を返す関数コード GET_CATALOG_NAME_ONLY、GET_SCHEMA_NAME_ONLY、および GET_TABLE_NAME_ONLY が新たに追加されました。

パラメータ

- z/OS 上の DB2 では、新しい 2 つのパラメータが使用できるようになります。
 - ASCII MIXED CCSID パラメータを使用すると、混合 CCSID を有効にして、データの取得元を ASCII 表のみに限定するように指定することができます。
 - EBCDIC MIXED CCSID パラメータを使用すると、混合 CCSID を有効にして、データの取得元を EBCDIC 表のみに限定するように指定することができます。

ASCII TO EBCDIC パラメータは、v10.0 より前のバージョンの Extract によって入力証跡ファイルが作成された場合に、下位互換性に対応するためにのみ使用してください。ASCII から EBCDIC への変換が現在デフォルトとなっているため、その他の場合はすべて無視されます。
- DBOPTIONS DECRYPTPASSWORD が AES 暗号化の復号化をサポートするようになりました。
- DDLOPTIONS DEFAULTUSERPASSWORD と PASSWORD が AES 暗号化をサポートするようになりました。
- DECRYPTTRAIL と ENCRYPTTRAIL が AES 暗号化をサポートするようになりました。
- ENABLEMONITORAGENT は ENABLEMONITORING に名前が変更されました。
- MAP には、Oracle の双方向のレプリケーションを実現するための CDR 機能をサポートする次のオプションが新たに追加されました。
 - GETBEFORECOLS は、変更前イメージを取得し、更新または削除操作時に証跡に書き込む列を指定します。
 - RESOLVECONFLICT は、MAP 文で表に対する操作の競合を Replicat がどのように処理するかを指定します。発生頻度の高い競合に対しては解決方法が提供されます。詳細は、MAP パラメータに関するリファレンス・ドキュメントを参照してください。
 - COMPARECOLS は、Replicat が競合の検出および解決を行うように構成されている場合に、競合の検出にどの列を使用するか指定します。
- TABLE および MAP の EVENTACTIONS オプションでは、次の操作が新規追加または機能強化されています。
 - IGNORE に、プロセスがイベント・レコードだけを無視し、トランザクション内の他のものをすべて処理する RECORD オプションが追加されました。RECORD がデフォルトです。
 - SUSPEND はプロセスを一時停止し、現在の実行のアクティブなコンテキストを保持しながら、GGSCI で発行される SEND コマンドに応答できるようにします。プロセスが一時停止されると、INFO コマンドはそれが RUNNING(実行中)であることを示し、RBA フィールドに最後のチェックポイントの位置が表示されます。処理を再開するには、新しい RESUME オプションを使用して SEND <group> コマンドを発行します。
 - SHELL には 2 つのフォームがあります。基本フォームは、システムに送信される基本の shell コマンドをリテラル値で実行します。新しい VAR 句を使用した SHELL は、shell コマンドでのパラメータ渡しをサポートします。
- EVENTACTIONS が DDL パラメータのオプションに加わりました。これにより、Extract または Replicat プロセスは、トランザクション・ログまたは証跡内の DDL レコードに基づいて定義済みの操作を実行します。DDL パラメータのその他のフィルタリング・オプションの指定により、DDL レコードが Extract またはデー

タ・ポンプによって証跡に書き込まれる場合や、Replicat によって実行される場合に、DDL イベントがトリガーされます。

- TRANLOGOPTIONS では、次のオプションが新規追加または機能強化されています。
 - ASMUSER が AES 暗号化をサポートするようになりました。
 - MININGUSER は、Extract が統合取得モードの場合に、Extract がダウンストリームの Oracle マイニング・データベースへのログインに使用するための、ユーザー名とパスワードを指定します。これは AES 暗号化をサポートします。
 - FETCHPARTIALXML は、REDO ログの部分的変更ドキュメントを使用する代わりに、完全な XML ドキュメントをフェッチします。デフォルトでは、ログ・マイニング・サーバーが、ソース・ドキュメントがすべて更新されたか、または部分更新されたかに応じて、完全な XML ドキュメントまたは部分的な XML ドキュメントを Extract に送信します。
 - INTEGRATEDPARAMS は、Extract が統合取得モードの場合に、ログ・マイニング・サーバーのパラメータをマイニング・データベースに渡します。
- RMTHOST と RMTHOSTOPTIONS に新しいオプションが追加され、これらのオプションにより、デフォルトで非同期のストリーミング IP プロトコルを使用し、送信側または受信側のシステムがこれをサポートしていない場合は同期プロトコルを使用することができます。
 - STREAMING はストリーミングを有効にします。応答を要求するフラグがパケットに含まれていないと、受信者(Collector)が送信者(プライマリ Extract またはデータ・ポンプ)にデータ・パケットに対する承認を送ることはありません。この方法は承認が省略されるため、同期プロトコルよりも時間を短縮できます。
 - NOSTREAMING は、同期インターネット・プロトコルを有効にします。送信者は、パケットを送信した後、受信者がそれを承認するのを待ってから、次のパケットを送信します。この方法はストリーミングよりも信頼性に優れていますが速度が遅く、すでにネットワーク遅延が大きい場合には特に時間がかかります。
- RMTHOST と RMTHOSTOPTIONS の ENCRYPT オプションが AES 暗号化をサポートするようになりました。
- USERID が AES 暗号化をサポートするようになりました。
- グローバリゼーション・サポートに対応するため、次のパラメータが追加されました。
 - CHARSET: Extract、Replicat、DEFGEN、Manager、GLOBALS に対して有効で、ローカル・プラットフォームが必要な文字をデフォルト・キャラクタ・セットでサポートしない場合にパラメータ・ファイルで使用する代替キャラクタ・セットを指定します。デフォルトでは、オペレーティング・システムのキャラクタ・セットがパラメータ・ファイルの読み込みに使用されます。CHARSET オプションはファイルを作成する他のパラメータでも使用可能で、指定したキャラクタ・セットでファイルを作成できるようになります。
 - SESSIONCHARSET: GLOBALS に対して有効で、すべてのローカル・プロセスのデータベース・ログイン・セッションに使用するキャラクタ・セットを設定します。
 - USEANSISQLQUOTES: リテラル文字列に二重引用符、オブジェクト名に一重引用符を使用できるようにします。
- ALLOWNONVALIDATEDKEYS パラメータが GLOBALS に新たに追加され、検証されていない主キーや無効なキーが一意識別子として使用できるように、Extract、Replicat、および GGSCI コマンドを構成できるようになります。このパラメータは、使用されるキーの選択基準よりも優先されます。これが有効な場合、NON VALIDATED および NOT VALID プライマリキーを一意識別子として使用します。

- GENLOADFILES および FORMATASCII に、Oracle NCHAR 列の ASCII 文字のエンコーディングを指定する、CHARSET オプションが新たに追加されました。有効な値は UTF8 です。
- AUTOSTART Manager パラメータが JAGENT と連動するようになりました。構文は、AUTOSTART JAGENT です。

コマンド

- MININGDBLOGIN は、Extract が統合取得モードの場合に、Extract がダウンストリームの Oracle マイニング・データベースにログインするための、ユーザー資格証明を提供します。
- 統合取得をサポートするデータベース・ログ・マイニング・サーバーを構築するには、DBLOGIN または MININGDBLOGIN の後に、DATABASE オプションを使用して REGISTER EXTRACT を発行します。
- DATABASE オプションを使用して UNREGISTER EXTRACT を発行すると、データベース・ログ・マイニング・サーバーが削除されます。
- ADD EXTRACT には次のような変更がありました。
 - このコマンドでは、LOGRETENTION に対してデータベースとともに自動的に登録されていた Extract の登録が行われなくなりました。LOGRETENTION オプションを使用して REGISTER EXTRACT コマンドを使用することによって、Extract を明示的に登録することが必要になります。
 - INTEGRATED TRANLOG オプションは、統合取得モードで Extract を追加することを指定します。
 - 統合取得モードを使用する場合は、THREADS オプションを 1 に設定する必要があります。
- ALTER EXTRACT には、従来型取得から統合取得へ、または統合取得から従来型取得への変更をサポートするオプションが新たに追加されました。
 - UPGRADE INTEGRATED TRANLOG は、従来型取得モードの Extract を統合取得モードに変換します。
 - DOWNGRADE INTEGRATED TRANLOG は、統合取得モードの Extract を従来型取得モードに変換します。
- INFO EXTRACT は、Extract の現在の取得モードを表示します。UPGRADE および DOWNGRADE という新しいオプションは、該当する場合に、Extract が統合取得モードにアップグレード可能かどうか、または従来型取得モードにダウングレード可能かどうかを示します。
- SEND EXTRACT には次のような変更がありました。
 - SUSPEND を指定して EVENTACTIONS がトリガーされた後、Extract に処理を再開させる RESUME オプションが新たに追加されました。
 - EVENTACTIONS の結果 Extract が一時停止されると、ステータス SUSPENDED が表示されます。
 - EVENTACTIONS 機能をサポートする TRACE OFF <file name> オプションが新たに追加されました。
- STATUS EXTRACT でもステータス SUSPENDED が表示されます。
- SEND REPLICAT には次のような変更がありました。
 - SUSPEND を指定して EVENTACTIONS がトリガーされた後、Replicat に処理を再開させる RESUME オプションが新たに追加されました。

- EVENTACTIONS の結果 Extract が一時停止されると、ステータス SUSPENDED が表示されま
す。
- EVENTACTIONS 機能をサポートする TRACE OFF <file name>オプションが新たに追加され
ました。
- STATUS REPLICAT でもステータス SUSPENDED が表示されます。
- ENCRYPT PASSWORD が AES 暗号化規格をサポートするようになりました。
- INFO TRANDATA は、Oracle サプリメンタル・ロギングが有効かどうかを示し、サプリメンタル・ロギング
が実行されている列を表示します。
- DBLOGIN に、後続のすべてのコマンドに対して GGSCI セッションのキャラクタ・セットを設定する、
SESSIONCHARSET オプションが追加されました。

ユーティリティ

- DEFGEN が機能拡張され、グローバルゼーションをサポートします。DEFGEN には次のパラメータが追
加されています。
 - NOEXTATTR はリリース 11.2.1 より前のバージョンとの下位互換性をサポートするコマンド・ライ
ン・パラメータで、ASCII 以外のキャラクタ・セットに対応しておらず、大/小文字の区別や空白を
含む引用符付きのオブジェクト名にも対応していません。
 - UPDATECS は、既存の定義ファイルのキャラクタ・セットを更新するコマンド・ライン・パラメータ
です。
 - CHARSET は、指定されたキャラクタ・セットで定義ファイルを生成します。
 - いずれの z/OS DEFGEN 出力ファイルも、z/OS 以外のサーバーには BINARY で FTP および
ダウンロードする必要があることに注意してください。

ドキュメントの強化および訂正

新しいエラー・メッセージの提供を開始しました。このドキュメントには、イベント・ログに書き込まれるエラー、警告、および情報メッセージの原因と処理について記載されています。このガイドは、発行されている他のドキュメントと併せて使用できます。

Oracle での未使用の列については、ターゲット表において、未使用の列の構造および場所をまったく同じにする必要はありません。これは、統合 Extract と従来型 Extract の両方に向けたものです。

非推奨になったパラメータおよびコマンド

- BR パラメータの CACHEBUFFERSIZE オプションは非推奨になりました。
- TRANLOGOPTIONS _OPTIMIZEROWMIGRATION がデフォルトとなっています。また、パラメータが削除されました。

ドキュメントの追加事項

この項には、『Oracle GoldenGate Windows and UNIX 管理者ガイド』および『Oracle GoldenGate Windows and UNIX リファレンス・ガイド』の追加事項を記載します。これには、ドキュメントの発行後に製品またはドキュメントに変更が生じたため、これらのドキュメントに記載されなかった項目が含まれています。

_IGNORETSERECORDS

_IGNORETSERECORDS(Oracle)は、内部パラメータに移動されたため、Oracle サポートによって指示されないかぎり使用しないでください。

このパラメータを指定すると、Extract は、表領域暗号化(TSE)で暗号化されたデータを含むトランザクション・レコードを無視します。このパラメータは、TSE データの取得をサポートするように Extract が正しく構成されていない場合に Extract が異常終了するのを防ぎます。無視される TSE レコード数にかかわらず、Extract は現在の実行で警告メッセージを 1 つのみ生成します。TSE レコードを無視すると、次の結果が生じることがあります。

- トランザクション全体が破棄される原因となり、トランザクション内の暗号化されていない表に対する DML がスキップされ、ソースとターゲットが同期しなくなることがあります。表自体が暗号化された表領域にない場合でも、xid とオブジェクト ID を含む変更ベクター (5.1) が暗号化されるため、暗号化されていないデータはスキップされます。
- TSE がデプロイされている場合は暗号化されたレコードを TSE の外部のオブジェクトに生成でき、これらのレコードもこのパラメータの影響を受けます。

ログ内の暗号化されているレコードをスキップすることで発生する可能性のあるデータ損失の性質により、このパラメータは、資格を持つ Oracle サポートまたは開発担当者のガイダンスに従ってのみ使用してください。TSE をサポートするように Extract を構成するには、『Oracle GoldenGate Oracle インストールおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

REGISTER コマンドでの追加権限

Oracle Bug#14186930 の修正により、REGISTER コマンドを発行する前に Oracle GoldenGate データベース・ユーザーに追加の権限を付与する必要があります。Oracle ソース・データベースのバージョンが 11.1.0.5 以上 11.2.0.1 以下のダウンストリーム構成で統合 Extract を設定する場合、dbms_logmnr_d パッケージの PL/SQL プロシージャを実行する権限を付与する必要があります。sys.logmnr_buildlog 表から選択する権限も必要です。

ドキュメントの正誤表

この項には、このバージョンのドキュメントの発行後に、ドキュメント内で見つかったエラーの修正情報が含まれています。

チェックポイント表

このリリースでは、チェックポイント表が変更されました。チェックポイント表を再構築するよう選択すると、新しい列は次のようになります。

log_csn	VARCHAR2(129)。入力から読み取られる最新の CSN が含まれます。
log_xid	VARCHAR2(129)。入力から読み取られる最新のトランザクション ID が含まれます。
log_cmplt_csn	VARCHAR2(129)。完了した最新のトランザクションの最新 CSN が含まれます。
log_cmplt_xids	VARCHAR2(2000)。完了した最新のトランザクションと同じ CSN を共有する、完了したトランザクションのリストが含まれます。

データの不整合の原因となるため、この表内のデータを編集したり、変更しないでください。

SQL Server でのビューへのレプリケーション

ドキュメントに、ビューへのレプリケーションがサポートされるかのような記述があります。ビューの取得および配信はサポートされません。基となる表は抽出およびレプリケートできます。

MAXFETCHSTATEMENTS

MAXFETCHSTATEMENTS が誤ってスタンドアロン・パラメータとして記載されています。FETCHOPTIONS パラメータのオプションです。

Oracle 統合取得

『Oracle GoldenGate Oracle インストレーションおよびセットアップ・ガイド』に次のような記載があります。

統合取得は、互換性が 10.2.0.0.0 以上のソース・データベースに対して使用できますが、このモードで Securefile LOB、XML 列、Transparent Data Encryption および UDT はサポートされません。ダウンストリーム・マイニング・デプロイを使用する場合、統合取得モードでこれらのバージョンに対してデータ型と記憶域がフル・サポートされます。マイニング・データベース自体は、統合 Extract 11.2.x 用 11.2.0.3 データベース固有のバンドル・パッチ(Doc ID 1411356.1)が適用された 11.2.0.3 である必要があります。

正しくは、次のとおりです。

統合取得は、互換性が 11.2.0.3 未満のソース・データベースに対する 11.2.0.3 ダウンストリーム・マイニング・データベースで使用できますが、このモードでは、SECUREFILE LOB、XML 列、Transparent Data Encryption および UDT はサポートされません。ダウンストリーム・マイニング・データベースは、統合 Extract 11.2.x 用 11.2.0.3 データベース固有のバンドル・パッチ(Doc ID 1411356.1)が適用されている必要があります。

1.6.1.2 項に、マッピング表ありの IOT が統合取得でサポートされることが記載されています。

MACRO パラメータ

MACRO パラメータはセミコロンで終える必要があることが明示されていません。

TABLEEXCLUDE および MAPEXCLUDE

これらのパラメータがシーケンスの除外にも使用できることが明示されていません。

ALTER EXTRACT オプションの記載漏れ

ALTER EXTRACT DOWNGRADE INTEGRATED TRANLOG オプションの THREADS オプションが記載されていません。正しい構文は、次のとおりです。

```
[, DOWNGRADE INTEGRATED TRANLOG [THREADS <number>]]
```

RAC システムでダウングレードする場合、THREADS オプションを使用して RAC スレッドの数を指定する必要があります。

EVENTACTIONS

EVENTACTIONS の STOP について誤解を招くような記述があります。正しい記述は、次のとおりです。

「指定されたイベント・レコードが出現した場合、プロセスを正常に停止させます。プロセスは、イベント・トランザクション内の他の操作が完了するのを待ってから停止します。」

MANAGESECONDARYTRUNCATIONPOINT

リファレンスに、SQL Server 2008 でこのパラメータがサポートされることが記載されていません。正しい記載は次のとおりです。

「(SQL Server 2005、SQL Server 2008/2008R2 および Sybase) Oracle GoldenGate が 2 次切捨てポイントを維持するかどうかを指定します。」

SQL Server 2005、SQL Server 2008/2008R2:

MANAGESECONDARYTRUNCATIONPOINT は、Oracle GoldenGate が SQL Server レプリケーションまたは Oracle GoldenGate 以外の CDC 構成と同時に実行されないため、Oracle GoldenGate が 2 次切捨てポイントを維持するときに使用します。

NOMANAGESECONDARYTRUNCATIONPOINT は、Oracle GoldenGate が SQL Server レプリケーションまたは Oracle GoldenGate 以外の CDC 構成と同時に実行されるときに使用します。

ROWID

『Oracle GoldenGate Oracle インストレーションおよびセットアップ・ガイド』に、ROWID データ型がサポートされないと誤って記載されています。この型はサポートされます。

SUPPRESSTRIGGERS

リファレンス・ガイドに、SUPPRESSTRIGGERS を指定した DBOPTIONS は USERID より前に置くよう誤って記載されています。USERID の後に置きます。

REPERROR

リファレンス・ガイドで、RETRYDELAY が誤って REPERROR オプションとして記載されています。そのオプションは DDLERROR オプションです。REPERROR の正しい遅延オプションは、DELAY、DELAYSECS、DELAYCSECS です。

Windows 上の Manager

Windows サービスとしてインストールされた場合、Manager が多数の Extract および Replicat グループを起動できない場合があることが記載されていません。ただし、Manager をデスクトップから起動してより多くのグループをサポートすることはできます。この問題は、Windows でのインタラクティブでないプロセスに対するヒープ・サイズの処理方法に関連しています。デフォルトでは、ヒープ・サイズは小さく、Manager が起動できるグループの数は 128 (64 ビットの場合)または 64 (32 ビットの場合)に制限されています。

DB2 の圧縮されたレコード

DB2 の圧縮されたレコードの取得は、LOB 列が含まれていない表にかぎりサポートされます。

インストールおよびアップグレード

Oracle からダウンロードしたインストール・ファイルは、gzip で圧縮されたファイルではなく、標準の.zip ファイルです。ダウンロード・ファイルを解凍するには、次の方法を使用してください。

- Windows: winzip、または.zip 拡張子のファイルをサポートする他の方法を使用します。
- UNIX/Linux: 'unzip' コマンド・ユーティリティを使用してダウンロード・ファイルを解凍します。
- メインフレーム: 'unzip' コマンド・ユーティリティを使用してダウンロード・ファイルを解凍します。

サーバーにこれらのユーティリティがない場合は、オラクル社の Web サイト (<http://updates.oracle.com/unzips/unzips.html>) からダウンロードできます。

アップグレードの手順は、『Oracle GoldenGate アップグレード・インストラクション for Windows and UNIX』を参照してください。

修正された問題

特定のバグ番号やチケット番号に関する不明点は、オラクル社カスタマ・サポートに問い合わせてください。SR は Oracle サポート SR 番号、BugDB はバグ ID 番号です。

バージョン 11.2.1.0.28 - 2015 年 1 月 30 日

20136247 - Oracle: 11.2.1.0.27 の Replicat で挿入がない。Replicat の再配置時に CSN が NULL に設定される問題が修正されました。

19471223 - Oracle: 分散トランザクションも XA トランザクションもないのにトランザクションが親なしとしてパージされる。クラスタ内のインスタンスが不適切なステータスを返す、または停止した場合のトランザクションのクリーン・アップに関する問題が修正されました。

19721652 - Oracle: Extract が OGG-01028 (トランザクションの開始に失敗) で異常終了する。マーカー表での挿入以外のレコードの処理に関する問題が修正されました。

19132627 - Oracle: パッチ 18900918 の適用後にコアダンプが生成される。初期化されていない SCN をコピーする問題が修正されました。

19724915 - Oracle: Extract が「OGG-00458 Cannot find metadata property DDL_MK_TAB_VALID.」で異常終了する。ggs_marker に対する ORA-1089 の処理の問題が修正されました。

19731438 - DB2: iSeries Extract が CCSID 37 から CCSID 1208 へのデータ変換中にエラーで異常終了する。TRUNCATE の処理の問題が修正されました。

19920244 - DB2: DB2 再編成後にエラー OGG-00785 が発生する。前回再編成時のタイムスタンプがない問題が修正されました。

18922312 - DB2: 「OGG-00146 CALL TO REPORTERRORONCONVERSION RETURNED - 1」エラーが発生する。接頭辞が同じ表名の長さが異なる問題が修正されました。

19726839 - DB2: iSeries Extract で再起動時に証跡ファイルが破損する。正しい文字セットでの名前の取得に関する問題が修正されました。

19926855 - DB2: iSeries Extract の証跡が原因で Replicat が異常終了する。小数点以下 0 桁で 19 桁以上の数値の精度に関する問題が修正されました。

19690344 - DB2: 取得されない LOB データが表に含まれる場合に Extract の動作が極端に遅い。変更前イメージのレコードがスキップされるポインタのクリーン・アップに関する問題が修正されました。

19731780 - DB2: GETUPDATEBEFORES の使用時に iSeries Extract で PKUpdate が FieldComp に変更される。主キー更新に関する問題が修正されました。

18797494 - DB2: DB2 Z/OS で、11.2.1.0.17 および 11.2.1.0.21 の使用時に EXTRACT が OGG-00785 で異常終了する。カタログの問合せに関する問題が修正されました。

19681035 - SQL Server: ページ圧縮表の処理時に Extract が異常終了する。圧縮されたページの列の誤った索引マッピングに関する問題が修正されました。

19151364 - Teradata: 古い CSN が新しい CSN の後にレプリケートされる。LoggingTime の競合状態に関する問題が修正されました。

バージョン 11.2.1.0.27 - 2014 年 10 月 13 日

18686098 - Oracle: GGS_DDL_TRIGGER_BEFOREにより、パーティション・メンテナンス・ジョブが遅くなる。GGS_DDL_HIST_ALT表へのオブジェクトの追加に関する問題が修正されました。範囲外のパーティション・オブジェクトのみ挿入されます。

19358139 - Oracle: Replicatで解析が複数回行われる。チェック・ポイント表の更新時のソフト解析に関する問題が修正されました。

19517566 - Oracle: EXTRACTが「OGG-01161 BAD COLUMN INDEX」で異常終了する。8バイト(214748364)を超えるトリガーのDDLおよびSCNに関する問題が修正されました。

19223638 - Oracle: DELETE TRANDATAでORA-54が発生したがGGSERR.LOGにエラーが記録されない。ggerror.logに適切な警告メッセージが追加されました。

19327073 - Oracle: CHECKPOINTSECSをゼロに設定すると、エラー・メッセージが発行される。CHECKPOINTSECSが0 (ゼロ)の場合に正しく処理されるようチェックが追加されました。

18874054 - Oracle: OGG EXTRACTがOGG-01028 (トランザクションの開始に失敗)で異常終了する。PURGEDDLHISTORYおよびPURGEMARKERHISTORYに関する問題が修正されました。

19280608 - Oracle: スクリプト(ulg.sql)で証跡ファイル内のデータ破損が検出される。停止時間が不要になるように、アップグレード時のログ・グループの追加および削除のロジックが修正されました。

18711326 - OGG: ポンプがOGG-01033 (暗号化および圧縮に伴うネットワーク通信の問題)で異常終了する。圧縮/解凍によるバッファのオーバーランのエラー処理に関する問題が修正されました。

19343756 - DB2 iSeries: German AS400で、ggos400installスクリプトがエラーCPF3848、CPF3773で失敗する。言語非依存の処理が改善されるようインストール・スクリプトが修正されました。

18016180 - DB2 iSeries: DB2 ISERIESで複数のジャーナルからの抽出がサポートされない。ジャーナル間のトランザクション分割の問題が修正されました。

17610281 - DB2 iSeries: ALTER EXTRACTの順序番号およびジャーナル受信者がEXTRACTを再配置しなかった。ジャーナル受信者名の上にジャーナル名が誤ってコピーされることが修正されました。

19522777 - OGGMON: TOMCAT 6.0.41 のソースおよびバイナリ、6.0.37 のソースが OGGTHIRDPARTY に追加された。最新バージョンの TOMCAT にアップグレードしてください。

バージョン 11.2.1.0.26 - 2014 年 9 月 11 日

18875912 - REPLICAT 12.1.2.0.0で、DDLを指定したSOURCEDEFS文を証跡で使用できない。2つの異なるターゲットへのレプリケーションで、ソースとターゲットの構造が一致しないため、一方はDDLを指定し、もう一方はDDLを指定しない場合、DDL @ EXCLUDE ALL STAYMETADATAを指定したsourcedefのみサポートされます。

17451407 - LOB/SDO_GEOMETRYがNULLの際に統合EXTRACTでフェッチされる。NULL LOB/UDTでの統合Extractのフェッチに関する問題が修正されました。

バージョン 11.2.1.0.25 - 2014 年 8 月 6 日

18295121 - 有効なスレッドの SEND EXTRACT が失敗する。RAC クラスタでは中央のノードを削除でき、クラスタの合計ノードより最大ノードが多くなるため、スレッドの合計数に対する従来型 Extract のサニティ・チェックが削除されました。

18815348 - 取得プロセスが OGG-00730 で異常終了する。データベースの古いバージョンでの DDL に関する再帰フラグの検証が修正されました。

18682710 - 不正な数値の処理で統合取得が異常終了する。統合取得での _CONVERTBADNUMBER のサポートが追加されました。

18909543 - レプリケーション・ジョブが ORA-00955 エラーで失敗する。DR\$や MLOG\$などの内部表がトリガーDDL から除外されました。

18414555 - EXTRACT XXX を SCN XXXXXXXX に配置できない。統合 Extract に誤ったバインド値を渡す問題が修正されました。

18685164 - CREATE INDEX ON SYNONYM が EXTRACT で取得されない。無視する前にシノニムがないかチェックするようにトリガーDDLレプリケーションが修正されました。

18859914 - BLOB データがターゲットにレプリケートされない。BLOB 列に対して MAP 文によるバイナリ・サポートが追加されました。

18884819 - LOBMEM で列 1 を検索中に REPLICAT が予期しないエラーで異常終了する。列マッピング機能での NULL LOB に関する問題が修正されました。

18719668 - SQL Server: LSN を指定して ALTER EXTRACT を使用すると、EXTRACT が常に昨年のバックアップ・ファイルを参照する。データベースが再作成されていると複数の GUID を保持する問題が修正されました。

18515176 - Teradata: 「OGG-00875 UNEXPECTED ERROR LOOKING FOR COL -32751 IN LOBMEM」エラーが発生する。LOB データを使用する前の DML が失敗した後、LOB を使用する DML の適用中に発生するエラーが修正されました。

18369824 - MYSQL: FETCHCOLS(*)の使用時に EXTRACT が異常終了する。列のバインド番号の不一致による Extract および FETCHCOLS に関する問題が対処されました。

バージョン 11.2.1.0.24 - 2014 年 7 月 9 日

18185978 - ORACLE: _ADDNATIVE が追加されても、統合 EXTRACT で負の日付がレプリケートされない。統合 Extract での負の日付に関する問題が対処されました。

18385525 - ORACLE: REPLICAT VARCHAR から BLOB へ、長さが 4000 に切り捨てられる。切り捨てずに VARCHAR から BLOB にマップするサポートが追加されました。

18541804 - ORACLE: EXTRACT が「*** STACK SMASHING DETECTED ***」エラーで失敗する。FORMATSQL 使用時に SQL 文が大量である場合のスタック・オーバーフローが修正されました。

18713244 - ORACLE: 顧客の REPLICAT で一部の列の値が正しくない。ソースとターゲットの DB ロケールが異なる場合の大文字/小文字の区別に関する問題が修正されました。

17911313 - ORACLE: USEDEFAULTS の使用時に REPLICAT の明示的な列マッピングが機能しない。内容が 4K を超える CLOB を処理するよう USEDEFAULTS が修正されました。

18555292 - ターゲット TCPERRS ファイルに基づいて COLLECTOR プロセスが再試行されない。tcperrs ファイルを使用するよう Collector の TCP バインド・エラーが変更されました。

18463085 - Sybase: REPLICAT のメモリーが停止せず、最終的にシステムによって強制終了される。Sybase でチェックポイント表を使用する際の REPLICAT に関するメモリー使用量の問題が修正されました。

18369974 - MYSQL: サポートされていない TINYINT データ型で EXTRACT CDR GETBEFORECOLS が異常終了する。TINYINT および INT24 のサポートが追加されました。

バージョン 11.2.1.0.23 - 2014 年 6 月 6 日

18103455 - 従来型 Extract から統合 Extract への変更時に Extract でスキップされた欠落データのため、Replicat が警告「OGG-01154 SQL error 1403 mapping」で異常終了する。修正により、新しい TRANLOGOPTIONS オプションの PREPAREFORUPGRADETOIE が導入され、従来型 Extract から統合 Extract に切り替えるためにプロシージャが変更されました。変更は次のとおりです。

1a. 実行中の Extract に対して、次のコマンドを発行します。

```
SEND extract <Extract 名> tranlogoptions prepareforupgradetoie
```

1b. 停止している Extract に対して、次の行をパラメータ・ファイルに追加してから起動します。

```
TRANLOGOPTIONS PREPAREFORUPGRADETOIE
```

2. 変更が有効になったこととアップグレードを続行できることを示す INFO GG-01873 メッセージについて、ggserr.log ファイルまたは対応する Extract レポート・ファイルを監視します。メッセージの例:

```
2014-06-06 19:06:09 INFO OGG-01873 The parameter TRANLOGOPTIONS  
PREPAREFORUPGRADETOIE has taken effect.Proceed to the next step in the upgrade process.
```

3. 次に、Extract を停止して dblogin を実行し、GoldenGate のユーザズ・ガイドに明記されているように Extract を変更します。

18664185 - 11.2.1.0.21 iSeries で PKUPDATE が FIELDCOMP として取得され、REPLICAT が失敗する。NOCOMPRESSUPDATES の使用時に主キーが適切に検出されなくなる、11.2.1.0.21 で発生した不具合が修正されました。

18513985 - GOLDENGATE ISERIES DB2 で EXTRACT ジョブが動かなくなる。複数のジャーナルから読み取る際に、Extract でジャーナルの読取りが停止する問題が修正されました。

18524138 - 順序のレプリケーションが OGG-00199/OGG-00869 で失敗する。AL32UTF8 以外のマルチバイト・データベースから AL32UTF8 のマルチバイト・データベースへのレプリケート時に、30 文字を超える順序名が切り捨てられる可能性があります。

17656570 - VAM API: VAMAPIF 用の累積バグ修正。40 を超える表が追加されると、VAMAPIF を使用する VAM API Extract がクラッシュします。

17806543 - EXTRACT RMTHOST のパラメータ"-W 600"の解析が異常終了する。パラメータ RMTHOST と PARAMS の間の先頭および末尾にある空白により、対応する Collector/Server プロセスが異常終了します。

18478633 - ターゲット DB でのパッケージ定義内のマルチバイト文字が文字化けする。トリガー・ベースの DDL 取得により、長い DDL 文/パッケージでマルチバイト文字が分割される可能性があります。

17336227 - TERADATA: AIX:REPLICAT が PERIOD データ型に関するエラーで異常終了する。PERIOD データ型が誤って文字データ型と認識される可能性があります。

15833298 - 統合 EXTRACT: 4MB を超える単一行を処理できない。結果は、エラーなしで異常終了しました。4MB を超える行を処理できるようになりました。

18311907 - ビットから数値へのレプリケーション。サポートされるようになりました。

17791129 - RFE: 行内格納、圧縮および重複除外を使用したセキュアなファイルの INSERTDELETES をサポートする。削除時に新しい FETCHMISSINGCOLUMNS オプションをセキュアなファイルに使用する際の NOCOMPRESSDELETES に関するフェッチ・サポートが追加されました。

18741375 - BLOB から BLOB: 列マッピング機能が含まれる場合にデータがマップされない。BLOB から BLOB への機能マッピングのサポートが追加されました。

18385525 - REPLICAT VARCHAR から BLOB へ、長さが 4000 に切り捨てられる。VARCHAR から BLOB への機能マッピングのサポートが追加されました。

バージョン 11.2.1.0.22 - 2014 年 5 月 8 日

18181181 - JAGENT: JAGENT が UI を監視するために適切に通信しない。反応しないまたは強制停止されたプロセスの状態を適切に処理するために、OGG JAgent にサポートが追加されました。

18084176 - JAGENT: OEM 12C OGG のホーム・ページに、OGG 12C ターゲットについて正しい EXT/REP ステータスがレポートされない。GoldenGate データストアに履歴ステータスが多数存在する際のステータス問合せのパフォーマンス問題が修正されました。この問題により、正しくないステータスがレポートされ、最後の OGG チェックポイント以降の秒数が増加し続け、プロセスの開始時にアラートが誤って送信される結果となりました。

17610493 - JAGENT: profileconfig.xml への OGG データ・キャッシングに関連する JAGENT IMPL が削除される。特定の条件下で、ProfileConfig.xml が破損する可能性があります。ProfileConfig.xml ファイルは必要なくなりました。

17195793 - JAGENT: - インスタンス・メッセージ MP に値がまったく表示されない。一部の GGSCI コマンドにより、GoldenGate データストアの ggserr.log メッセージ・メトリックが破損していました。特に、"!" が後に続く GGSCI コマンドがこの問題の原因となっていました。

18396731 - x86 プラットフォームで、MGR の起動を妨げる問題が修正されました。

18393852 - トランザクション無視のメッセージが GGSERR.LOG に追加された。Extract では、トランザクションの開始後に Extract が起動すると、トランザクションの部分が無視されたメッセージが ggserr.log に記録されます。

18255804 - GGSCI> INFO ALL が異常終了し、コア・ファイルが作成される。チェックポイント表名が"." (ピリオド)で終わる場合に GGSCI が異常終了する問題が修正されました。

18219754 - EXTRACT が「CANNOT FIND METADATA PROPERTY %DDL_MD_TAB_CLUCOLS. DDL META.」で異常終了する。SYS 表の DML によって Extract が「DDL_MD_TAB_CLUCOLS が見つかりません」で異常終了する、トリガーなしの Extract DDL レプリケーションに関する問題が修正されました。CLUCOLS プロパティはトリガーなしの Extract に必要ありません。

18189160 - 「OGG-01798 NATIVE DATA FOR TABLE HR.ABS_CBO_DEALXREF, COLUMN LAST_MOD_D.」エラーが発生する。ネイティブのデータ型レプリケーションが有効になっている場合の問題が修正されました。

18156416 - CDR 例外がある REPLICAT で表の列に無効な変更前の値が含まれる。Replicat で、UTF8 に変換されていない RAW/バイナリ・データの変更前イメージが処理されていました。

18163788 - DEFGEN エラー・メッセージが標準出力になり、標準エラーとならない。

16718963 - SQL 問合せに関連する DDL で EXTRACT の動作が遅い。SQL 問合せで一部の変数がバインドされていませんでした。

18368598 - REPLICAT が OCI エラー「ORA-22922:LOB 値が存在しません。」(ステータス = 22922)で異常終了する。MAXLONGLEN パラメータを 4000 を超える値に設定した場合、CLOB が誤って文字列としてバインドされ、ORA-22922 データベース・エラーとなりました。

バージョン 11.2.1.0.21- 2014 年 4 月 14 日

18199249 - MYSQL: EXTRACT が複数挿入イベントに対してエラー OGG-00146 で異常終了する。複数行の挿入がディスク上の Redo に完全にはフラッシュされないことで Extract が異常終了する問題が修正されました。

18196247 - SQL Server: OGG-00868 により、OLE DB が指定された MAP 文に対して SQLEXEC が失敗する。ストアド・プロシージャをコールし、1) SQLEXEC PARAMS で一部のプロシージャ・パラメータが指定されておらず、2) datetime 型のパラメータが使用されている際に Extract が異常終了する可能性があります。

17788053 - OGG 12C MGR で、ポートがすでに他の MGR によって使用されていることを検出できない。IPv4 と IPv6 の両方を使用し、IPv4 がすでに SAID ポートを使用している場合に使用中のポートが正しくレポートされない一部のデュアル・スタック・システム向けに検出機能が拡張されました。この拡張機能では、GLOBALS ファイルで USEIPV4 パラメータを使用して、IPv4 のみの使用と使用中のポートの検出を強制します。

18235617 - DB2 on z/OS: EXTRACT により、DB2 表の再編成後に DB2 ダンプが生成される。IBM API の失敗時にループが実行される稀な状況処理できるようになりました。

14253057 - SQL Server: GOLDENGATE でサプリメント・ロギングを有効にしようとすると、OGG-01483 がスローされる。可変長のキー列に関する不要な警告が削除されました。

バージョン 11.2.1.0.20 - 2014 年 3 月 14 日

16696132 - IE: EXTRACT で SPATIAL 索引の MDRS_* 順序が解決されて、REPLICAT が失敗する。Spatial の一時表および順序が作成されましたが、Extract では無視していました。

17929301 - IE: 複数のオブジェクト列に対して更新中に SEGV が発生する。複数の ADT 列への更新により、統合 Extract が明白なエラーなしに異常終了しました。

14028505 - DB2400: カタログでシステム・ファイルが見つからず、REPLICAT で失敗する。物理ファイルが DDS または SQL DDL なしで作成されている場合、表は内部的に記述される、またはプログラムによって記述されると見なされます。このようなファイルの処理に対してサポートが追加されました。

17797270 - z/OS: 「OGG-00369 error in token clause」エラー: 文字セットが正しくない。エラー・メッセージのトークン名がセッションの文字セットではなく UTF8 で表現されていたため、読み取れなかった。

18082558 - IE CHECKPOINTRETENTIONTIME で部分的な日数が受け入れられない。

18173828 - 再起動後に EXTRACT がハングする。ワイルドカード文字の解決における内部デッドロックの問題が解決されました。

14028505 - DB2400: カタログでシステム・ファイルが見つからず、REPLICAT で失敗する。

17899533 - ORA-4031 により、REPLICAT でトランザクションが失われる。Replicat はデフォルトで ORA-4031 で異常終了するようになりました。

18117010 - GETFILE パラメータが特定の UNICODE 文字について正しい値を送信しない。OGG Director に影響を及ぼした、Unicode 文字を UTF-8 に変換中に発生する問題が修正されました。

17968553 - EXTRACT が OGG-00664 (USERID / SYSDBA での無効なユーザー名/パスワード)で異常終了する。構文"userid / sysdba"でログオンした場合に、Extract で sysdba フラグを Oracle に渡せるようになりました。

17958962 - 従来型 EXTRACT の CHECKPOINTRETENTIONTIME を変更するパラメータ。新しいパラメータ"DAYS"が、従来型 Extract でログ保存時間を構成するために TRANLOGOPTIONS LOGRETENTION に追加されました。

17897195 - Teradata: REPLICAT が「OGG-00551 DATABASE OPERATION FAILED: BINDING STATEMENT」で異常終了する。

17023729 - EXTRACT がアーカイブ・ログに存在しない証跡ファイルで削除を実行する。同じトランザクションの同じ行に対する 2 つの更新があり、2 番目の更新によって行が移動して削除と解析された問題が修正されました。

17334509 - IE: EXTRACT が OGG-01028 (フォーマット・エラー)で異常終了できない。ALTID を使用すると、サポートされていないために Extract が異常終了するようになりました。

17943750 - OGG 12C: 従来型 EXTRACT のパフォーマンスが V11.1 の従来型 EXTRACT から低下している。小さなパフォーマンス問題が修正されました。

17234921 - データストアの削除コマンドの発行後、GGSCI に JAGENT が表示されない。データストアの削除により、JAgent のコマンドが無効になっていました。

18105480 - REPLICAT が OGG-01296 で異常終了し続ける。キー列の特定時に、無効な制約に関連付けられた一意の索引が無視されていました。

18043695 - EXTRACT V11.2 では 2 部構成の名前の証跡が書き込まれる一方、11.1 では正常に動作する。11.2 で、Extract 内のマッピングが証跡で 3 部構成の名前を必要とするターゲット定義ファイルを使用している場合、11.1.x の動作を復活させるには `_ALLOW3PARTNAMES` を指定する必要があります。

17500610 - ORCL2MSSQL: XML 型に関連する警告 OGG-00869 が REPLICAT 側で表示される。MSSQL 配信により、ソース・データベースが MSSQL でない場合に XML データ値が破損することがあります。

17973065 - PASSTHRU モードで使用している場合に EXTRACT ポンプで証跡ファイルが XML 形式に変換されない。FORMATASCII、FORMATXML および FORMATSQL は、PASSTHRU では相互に排他的で、一緒に使用すると、Extract プロセスは適切なエラー・メッセージで異常終了するようになりました。

バージョン 11.2.1.0.19 - 2014 年 2 月 21 日

17641349 - Z/OS: DB2 EXTRACT を 11.2 にアップグレードした後に、11.2 の TERADATA REPLICAT が失敗する。文字列として格納された 10 進数データ型の EBCDIC から ASCII への変換に関する z/OS のみの問題が修正されました。

17952516 - ORACLE REPLICAT: ソース列とターゲット列が一致しない。バイナリ列の文字セット変換が回避されました。

18035994 - SYBASE EXTRACT がセグメンテーション違反で失敗する。xml/html データに LOB 列が含まれる場合のコア・ダンプ問題が修正されました。

17804887 - GETBEFORECOLS を使用している場合に EXTRACT で挿入用の NULL 列値が取得されない。

バージョン 11.2.1.0.18 - 2014 年 2 月 4 日

17943788 - SQL SERVER OGG REPLICAT が OGG-00868 (ネイティブ・エラー: 0, 0) エラーで異常終了する

17943788 - SQL SERVER OGG REPLICAT が OGG-00868 (ネイティブ・エラー: 0, 0) エラーで異常終了する。COLMAP の列に空の文字列を割り当てる際のジャンク文字列の問題が修正されました。

17881677 - 参照問合せ用に SQLEXEC から値を取得できない。文字セットの制限付きサポートが SQLEXEC について追加されました。ターゲットへの @GETVAL() マップにより、正しいデータが適用されるようになりました。

17897353 - ISERIES で、EXTRACT データ・ポンプが空のジョブを生成する。OGG ジョブを LOGLVL(4 0 *SECLVL) または LOGLVL(0 0 *NOLIST) より高い値に設定すると、ロギング・レベルによってメッセージが記録されなくなったため、ジョブ・ログが生成されなかったことを示すメッセージが含まれるジョブ・ログを取得できます。この修正により修正され、どの LOGLVL 値でも不適切な副次的作用なしに使用できるようになりました。

17889806 - 統合 EXTRACT (IE) では変更前レコードが取得されない一方、従来型 EXTRACT では取得された。統合 Extract では、大規模な LOB の更新時に BEFORE_IMAGE が存在しませんでした。

17790908 - OGG EXTRACT ポンプが、データベース・メタデータの不一致が検出されたため異常終了する。OGG Extract が「OGG-05500 Detected database metadata mismatch」エラーで異常終了する。

バージョン 11.2.1.0.17 - 2014 年 1 月 14 日

17898682 - 固定長の CHAR フィールドおよびグラフィック・フィールドの末尾にあるスペースが送信されず、列が NOT NULL と指定されている場合に、VARCHAR または ORACLE データベースにマップされると、マッピング問題が発生することがある。

17643084 - クラッシュ/停止から DB がリカバリされる際に、EXTRACT が移動できず、バイナリ・ログに固定される。

17444420 - 従来型 EXTRACT で引き続き圧縮エラーを抑制するための内部パラメータが追加された。

17432000 - 一部のログ順序番号が欠落しているため、統合 Extract がログ・ファイルなしエラー OGG-00866、「ORA-01291: ログ・ファイルがありません。」で異常終了し、ログをリストアすると Extract はエラーなしで稼働する。

17636921 - デフォルト・マッピング時に、変数名が接続語かどうか確認するため、"and" および "or" と比較される。これにより、同じ名前の列が誤ってマップされます。

17214768 - DB2 Z/OS EXTRACT が、表の再編成後に OGG-00785 (行イメージが表定義と一致しない) で異常終了する。

17478991 - グローバル化コードでの直近の変更により、DDL SUBST 機能が大文字小文字を区別するようになった。

バージョン 11.2.1.0.16 - 2013 年 12 月 17 日

17749813 - MGR、EXTRACT、REPLICAT、GGSCI、LOGDUMP、KEYGEN および DEFGEN 用の新しいネイティブのコマンド・インタフェース。これらの新しい IBM I コマンドを使用すると、顧客は通常のコマンド・インタフェースを使用して ORACLE GOLDENGATE を操作したり、SBMIJOB などのワークロード管理ツールを使用してジョブを送信できます。

17474231 - 順序名にマルチバイト文字が含まれる場合の順序レプリケーション時に、Replicat で「OGG-01163 BAD COLUMN LENGTH」エラーがレポートされる問題が発生する。

17497933 - MYSQL の全バージョンで、5.1.46 および 5.5.3 以降、ビット・データ型が新しい形式でバイナリ・ログに書き込まれる。新旧のログについて、このデータ型を正しく解析するようアルゴリズムが変更されました。

17641947 - DBLINKS からの DDL を検出すると、Extract が異常終了した。DBLINKS はサポートされていないため、この条件を警告としてフラグを立てて続行できるよう EXTRACT が変更されました。

16887800 - Replicat で、大規模な SOURCEDEFS ファイルを処理する際に、開始に数時間かかった。

17629464 - 文字セットが変換されなかったため、TIMESTAMP データ型および INTERVAL データ型が NCHAR 列にマップされなかった。

17223151 - アップグレード時に、サプリメンタル・ログ・グループの追加がフィルタされなかった。

16996012 - 保留中の DDL および DML が UDT DDL の前に処理されることを示す、Extract からのメッセージが改善された。

バージョン 11.2.1.0.15 - 2013 年 11 月 26 日

13792020 - パラメータ・ファイルに指定した STATOPTIONS が GGSCI STATS コマンドによって無視されていた

17031022 - EXTRACT がスナップショット・スタンバイ・データベースで稼働するようサポートが追加された

17192058 - REPLICAT で証跡ファイルのレコードから ROWID を取得できるようになった

17317808 - REPLICAT で、WINDOWS ユーザー・スキーマを持つ表に配信されない

16630088 - DEFGEN で NOEXTATTR を使用している場合、生成された DEFSFILE でスキーマおよび表明が大文字になっていなかった

17531707 - 圧縮も暗号化もされず行に格納されている SECUREFILE LOB が削除レコードの証跡に書き込まれなかった

17385112 - MANAGER のセキュリティの脆弱性に対処した

17257350 - キーワードを列名として使用すると REPLICAT が異常終了する不具合が修正された

16506751 - ワイルドカード文字のアスタリスク(*)および疑問符(?)が USERID/PASSWORD に存在する場合、DBLOGIN でエラーがスローされる

17031022 - EXTRACT がスナップショット・スタンバイ・データベースで稼働するようサポートが追加された。新しい TRANLOGOPTION NOJMINEFROMSNAPSHOTSTBY が導入されました。これは Oracle 固有であり、デフォルトで NOMINEFROMSNAPSHOTSTBY に設定されます。

バージョン 11.2.1.0.14 - 2013 年 11 月 5 日

17543898 - GGSCI 'ADD SCHEMATRANDATA'によってすべての列のサブリメンタル・ロギングが有効にならない

16838483 - ASM ファイル・ブロック・サイズが取得されずに標準サイズが使用され、ORA-24331 がスローされる

17538328 - DB2I: 一部の削除操作で、REPLICAT が列索引の不正エラーで異常終了する可能性があるデータが証跡に含まれることがある

17471678 - DB2 ISERIES EXTRACT で CCSID 65535 の表が正しく取得されない。新しいオプション'DBOPTIONS BINDCHARFORBITASCHAR'が EXTRACT、REPLICAT および DEFGEN に追加されました。これにより、CHAR/VARCHAR として定義されている CCSID 65535 の列またはビット・データの CHAR/VARCHAR を、通常の解析可能なエンコーディングのフィールドのように処理できるようになります。

17450167 - 統合取得で ALTER SEQUENCE DDL の処理が遅い

17439155 - LSN 0 に配置しようとして EXTRACT が DB2READLOG()エラーで異常終了する

17380117 - ソース DB への接続が多すぎる場合に、DDL_SETUP.SQL の特定の問合せの実行が非常に遅くなる

17340345 - MYSQL REPLICAT が重複主キー違反で異常終了する

17297243 - ODBC をバッチ・モードで使用している場合、REPLICAT が異常終了する

17215678 - メモリーの破損のため、EXTRACT が異常終了またはハングする

17215577 - DB2i: DBLOGINUSER、DBVERSION、DBMAJORVERSION、DBMINORVERSION、DBNAME および TRANSACTION USERNAME 環境変数が正しく設定されなかった

17080985 - EXADATA ボックスでの REPLICAT のメモリー使用量の問題により、ノード障害が発生する

17064061 - KEYCOLS が使用されている場合、破棄されるレコードの変更前イメージが正しくない

17026426 - BATCHSQL で BATCHERRORMODE が有効になっている場合、DB2 REPLICAT がコア・ダンプを生成して異常終了する

10240388 - PURGEOLDEXTRACTS を使用した MANAGER で一部の証跡ファイルがパージできない

17453625 - NULL の入力パラメータをスタアド・プロシージャに渡すと、コールが「OGG-03015 CHARACTER SET CONVERSION FAILURE FOR ERROR CODE 1002」で失敗する

バージョン 11.2.1.0.13 - 2013 年 10 月 11 日

17434145 - 11.2.1.0.7 以降の EXTRACT による証跡ファイルの書込みが遅く、FSYNC コールが多すぎる

17439155 - EXTRACT が DB2READLOG()エラーで異常終了する

17437023 - CHAR/VARCHAR UCS2 として定義されている SQL/MX 列のデータが破損している

17363190 - REPLICAT が異常終了する: OGG-00551 DATABASE OPERATION FAILED: BINDING STATEMENT COLUMN

17355478 - Bug#16694692 の修正時点で、EXTRACT が「SCN が不正である」エラーで異常終了する

17317448 - EXTRACT で PKUPDATE のキー列の(変更前ではなく)変更後イメージについて NULL が取得される

17235829 - REDO_FLUSH からのオーバーヘッドが軽減された

16870850 - EXTRACT TCP/IP エラー4127 (接続拒否)。

バージョン 11.2.1.0.12 - 2013 年 9 月 20 日

17035110 - 11.2.1.0.6 でパラメータ置換が機能しない

バージョン 11.2.1.0.11 - 2013 年 9 月 10 日

- 14263013 - 初期ロードでの DB2400 FLOAT、REAL および DOUBLE のデータ破損
- 17068697 - 統合取得の EXTRACT が、次のメッセージで異常終了する: ORA-26938: メッセージ 26938 が見つかりません
- 17046046 - 従来型 EXTRACT と統合 EXTRACT 間で証跡のタイムスタンプ値が一致しない
- 17076303 - FORMATSQL ORACLE の使用時に EXTRACT がエラーなしで異常終了する
- 17219739 - DB2I: 文字ベースのフィールドをフェッチできない

バージョン 11.2.1.0.10 - 2013 年 8 月 22 日

- 16896588 - SQLEXEC の使用時に REPLICAT がエラー・メッセージなしで異常終了する
- 16081029 - MSSQL から ORACLE へ、UNIQUEIDENTIFIER 型を RAW (16) にマップすると正しくない値が取得される
- 16629201 - EOFDELAY=0 を指定すると、EXTRACT コマンドがタイムアウトする
- 16031854 - SQLSEVER からのビット・データ型について初期ロード EXTRACT での動作に一貫性がない

バージョン 11.2.1.0.9 - 2013 年 8 月 13 日

- 16922501 - GOLDENGATE でレプリケート・プロセスがエラー・メッセージなしで異常終了する
- 16843333 - UDT SYS.XMLTYPE の OCI_ATTR_NAME の取得時に REPLICAT が OCI エラーで異常終了する
- 16857778 - V11.2 EXTRACT が「最小サプリメンタル・ロギングなし」で誤って異常終了する -- 11.1 では機能する
- 13522196 - 主キーが無効にされた表に対する一貫性のないキー選択
- 16597313 - レポート・ファイルにエラーなしで 11.2.1.0.4 EXTRACT が異常終了する

バージョン 11.2.1.0.8 - 2013 年 7 月 30 日

- 17031276 - ALTER EXTRACT データ・ポンプの EXTRBA ### が正しくない
- 16494228 - マッピング・ソース表が小文字の場合に、REPLICAT で証跡データが処理されなかった

バージョン 11.2.1.0.7 - 2013 年 7 月 16 日

- 13843209 - EXTRACT で実行時に時間隔パーティション化された表からのデータが欠落する

16440919 - WINDOWS での OGG インストール用に JAGENT を MGR によって起動する必要がある

9426396 - OS-3149-GG: RFE: ターゲットが異なる同じ RMTTRAIL 名を処理するようになった

16837250 - 上限 999999 に近づいている証跡ファイルについて警告メッセージが実装された

16880185 - DB2400: '!'文字が含まれる名前により異常終了する

16875365 - DB2400: インストーラ・スクリプトで 8 文字を超えるユーザー名が使用可能になった

16717523 - DB2I: GGOS400INSTALL が IASP と連動しない

16878195 - DB2400: DBLOGIN の実行時に SEGV が発生する

16817481 - EXTRACT プロセスで誤ったキー列が使用される

16775004 - RFE: 4K を超える場合に LOB/BLOB/XML などに対して FORMATXML がサポートされようになった

16909471 - GOLDENGATE REPLICAT で表示できない: 表がターゲット DB に存在しない

16874949 - Z/OS EXTRACT で SQLEXEC を実行すると、TRAILCHARSETASCII の使用時に問合せが失敗する

16865401 - RBA 107497 で始まる PDATA を含む PDATA で不整合が検出され、EXTRACT が異常終了する

16797913 - DB2400: 列 CCSID 65535 によるフェッチで変換エラーが発生する

バージョン 11.2.1.0.6_03 - 2013 年 6 月 24 日

16837538 - EXTRACT が TRAN ID 0 で異常終了する

16734765 - DB2400: ジャーナル・リーダーを最適化した

16717315 - DB2ISERIES: ISERIES 5.4 および 7.1 でのみ、基本 Bug#14734558 に基づいて挿入が欠落する

16796735 - DB2LUW: TRANLOGOPTIONS EXCLUDEUSER が損傷している

16283968 - BEGIN オプションを指定して ALTERED/ADDED を使用すると、レコードが存在しているのに REPLICAT が失敗する

15933541 - IGNOREMAPPING によって JAVA クラス名が大文字になるため、DDL が無効になる

9735915 - ***** ネットワーク監視によるネットワーク・チェック後、MANAGER が稼働し続ける必要がある

バージョン 11.2.1.0.6_02 - 2013 年 6 月 10 日

10379816 - BATCHSQL の使用時に REPLICAT がエラーなしで異常終了する

14588337 - REPLICAT が XML 型のデータについて ORA-00942、ORA-06512 で異常終了する

14064948 - EXTRACT がエラー・メッセージなしで異常終了する(MUNMAP、MSYNC)

16704880 - REPLICAT で NCHAR/NVARCHAR2 が変更前に割り当てられていない

16718699 - OGG REPLICAT で VARGRAPHIC 列が正しくレプリケートされない

バージョン 11.2.1.0.6_01 - 2013 年 5 月 28 日

16764719 - STOP JAGENT の使用時に、GGSCI が JAGENT の終了を待機しない

16761976 - BDB フラグ DB_FAILCHK が環境で予期したとおりに機能しない -> オープン

16745962 - 監視が有効になっている場合に、GGSCI が `_DB_HYBRID_MUTEX_SUSPEND` でハングする

16775608 - MANAGER が *NIX で同期してバックグラウンド・タスクを実行する

16343547 - CHAR/NCHAR が混在する列マッピング機能でデータが破損する

16690124 - EXTRACT がエラーなしで異常終了する

16705087 - MYSQL EXTRACT で、空の文字列で更新されたテキスト列が取得されない

16562964 - OGG STATS コマンドにより、EXTRACT が異常終了する

16265487 - SYBASE REPLICAT が OGG-00868 (マッピングに対して CS_PREPARE を実行できない)エラーで異常終了する

14160227 - REPLICAT でビューである表の定義を取得できないことがある

16617590 - REPLICAT パラメータ "CDROPTIONS_CHECKNULL" が正しく機能しない

16522174 - パーティション化された表で EXTRACT (11.2.1.0.5) の起動に長時間かかる

16396505 - Bug#16382644 のエラーについて、TXN ID、REDO 順序、障害の RBA が追加された

16407881 - EXTRACT が「OGG-00665 OCI ERROR」エラーで異常終了する

16487293 - LAST_DML_TIMESTAMP が NULL の場合に、GOLDENGATE REPLICAT UPDATE がスキップされる

16396677 - OS の認証されたアカウントに関する OGG 構成問題

16186936 - GGS MYSQL EXTRACT の一貫して過度な CPU 使用率

16330093 - ORACLE WALLET して接続している場合に、EXTRACT が異常終了する

16390509 - EXTRACT が、スレッド 196608 から変更を取得するよう構成されていない

バージョン 11.2.1.0.6 - 2013 年 4 月 24 日

- 16264201 - DB2 ISERIES EXTRACT が異常終了する: GGCOLUMNADDBYINDEX: GG_OBJ_RECORD
- 16391147 - EXTRACT が異常終了する: CCSID 37 から CCSID 1208 へのデータ変換中にエラーが発生する
- 16463798 - GGSCI: 既存のジャーナル・イメージで BEFORE/AFTER が使用されない場合に、DELETE TRANDATA が失敗する
- 16463615 - ファイル・ロックングのため、DB2 ISERIES で必要な権限が追加できない
- 16301960 - EXTRACT SOURCEISFILE で破損したレコードが証跡に作成される
- 16398245 - Z/OS EXTRACT が「最大コピー1 ログを超えました」で異常終了する
- 9417000 - OS-4915-GG: RFE: 正しい MGR ポート番号がプロセス・リストに表示される
- 16368582 - FORMATXML および DDL の使用時に EXTRACT がエラーなしで異常終了する
- 16343547 - CHAR/NCHAR が混在する列マッピング機能でデータが破損する
- 16037994 - MYSQL REPLICAT でテキスト列が 63 文字に切り捨てられる
- 13490698 - RENAME ON SEQUENCE/VIEW/SYNONYM で、REPLICAT が ORA-03001 で異常終了する
- 16245156 - ALTER REPLICAT の EXTRBA NNN コマンドが前のバージョンと異なる動作をする
- 16025609 - OGG Z/OS EXTRACT: CPU 使用率が増加した
- 16166365 - OGG V11.2 EXTRACT で変更後イメージの AUDITRBA 値が書き込まれない一方、11.1 では正常に動作する
- 16093430 - REPLICAT による CPU 問題: Bug#16073857 (IBM PRM 番号は 56499.122)を参照
- 15922899 - データストアで BDB0060、BDB1581、BDB1582 のエラーが発生する
- 14251780 - ソースのクラッシュ後、「証跡ファイルのヘッダー・ファイル・サイズの値が実際と異なる」
- 16018524 - 列の ROWLASTTOUCHED に対してサポートされていないデータ型が GETBEFORECOLS 句に指定された
- 15852703 - LOGDUMP の FILTER SHOW コマンドで正しくない開始時間の設定が表示される
- 15879577 - EXTRACT で RENAME ON SYNONYM が ALTER TABLE に変更される
- 13002036 - サプリメンタル・ロギングがない場合に、EXTRACT が「セグメンテーション違反」で異常終了する
- 14838357 - 別のインスタンスの失敗後、RAC で EXTRACT がエラー OGG-665、ORA-12805 で異常終了する
- 15975818 - FORMATASCII、SQLLOADER の使用時に、RMTFILE が分割されない

15929001 - ORACLE -> SYBASE REPLICAT で、数値からビットへのレプリケートが正しくない

15923407 - ソース NLS_LANG の使用時に、REPLICAT が「OCI ERROR WRITING LOB (SMALL)」で失敗する

15973393 - GOLDENGATE 11.2.1 で圧縮された DB2 9.7 の表から抽出されない

14605912 - TRANSMEM ディレクトリが誤って作成された場合に、EXTRACT でエラー・メッセージが必要

14667852 - 表からのフェッチ中に、EXTRACT が予期しないエラーで異常終了する: 1410

15903878 - MGR.RPT ファイルが 1 つおきの接尾辞で回っている

15856453 - LOGDUMP が機能しない

バージョン 11.2.1.0.5_02 - 2013 年 3 月 18 日

16398245 - Z/OS EXTRACT が「最大コピー1 ログを超えました」で異常終了する

16368582 - FORMATXML および DDL の使用時に EXTRACT がエラーなしで異常終了する

16343547 - CHAR/NCHAR が混在する列マッピング機能でデータが破損する

15850861 - 'EXCLUDE INSTRWORDS'により、すべての DDL が除外される

16037994 - MYSQL REPLICAT でテキスト列が 63 文字に切り捨てられる

13490698 - RENAME ON SEQUENCE/VIEW/SYNONYM で、REPLICAT が ORA-03001 で異常終了する

16245156 - ALTER REPLICAT の EXTRBA NNN コマンドが前のバージョンと異なる動作をする

16025609 - OGG Z/OS EXTRACT: CPU 使用率が増加した

16166365 - OGG V11.2 EXTRACT で変更後イメージの AUDITRBA 値が書き込まれない一方、11.1 では正常に動作する

16093430 - REPLICAT による CPU 問題: Bug#16073857 (IBM PRM 番号は 56499.122)を参照

15922899 - データストアで BDB0060、BDB1581、BDB1582 のエラーが発生する

16018524 - 列の ROWLASTTOUCHED に対してサポートされていないデータ型が GETBEFORECOLS 句に指定された

15852703 - LOGDUMP の FILTER SHOW コマンドで正しくない開始時間の設定が表示される

15879577 - EXTRACT で RENAME ON SYNONYM が ALTER TABLE に変更される

14838357 - 別のインスタンスの失敗後、RAC で EXTRACT がエラー OGG-665、ORA-12805 で異常終了する

15975818 - FORMATASCII、SQLLOADER の使用時に、RMTFILE が分割されない

15929001 - ORACLE -> SYBASE REPLICAT で、数値からビットへのレプリケートが正しくない

15923407 - ソース NLS_LANG の使用時に、REPLICAT が「OCI ERROR WRITING LOB (SMALL)」で失敗する

15973393 - GOLDENGATE 11.2.1 で圧縮された DB2 9.7 の表から抽出されない

14667852 - 表からのフェッチ中に、EXTRACT が予期しないエラーで異常終了する: 1410

15903878 - MGR.RPT ファイルが 1 つおきの接尾辞で回っている

15856453 - LOGDUMP が機能しない

バージョン 11.2.1.0.5 - 2013 年 1 月 15 日

15941835 - "HANDLETPKUPDATE" オプションを使用すると、REPLICAT がハングする

15919205 - トリガーにより、統合取得の EXTRACT で 1 つの挿入に対して 2 つの挿入が取得される

15917648 - 数値ごとに TMF AUX を含めるために TRANLOGOPTION が追加された

15852579 - バージョン 11 の COLLECTOR で HP NONSTOP 定義ファイルを解析できなかった

14839664 - Z/OS DB2 の REPLICAT でターゲット表が見つからない

14038568 - SQLMX EXTRACT が異常終了する: TCP/IP エラー 4127 (接続拒否)。

バージョン 11.2.1.0.4_02 - 2012 年 12 月 24 日

15880166 - V11.2 MSSQL REPLICAT でビット値が 0 から 1 に変換される

15937646 - V11.2 REPLICAT がエラーなしでクラッシュする

14850454 - EXTRACT がエラーなしでクラッシュし、起動できない

15838419 - 長時間実行中のトランザクションのために一時領域(DIRTMP ディレクトリ)が過度に使用される

15890047 - OGG-01937 EXTRACT IS NOT CONFIGURED TO CAPTURE CHANGES FROM THREAD 2,748,312,10

14386938 - SQL SERVER の EXTRACT がハングする

14636822 - 統合 EXTRACT で欠落している ARC ログ名を出力する必要がある

14759603 - V11.2 REPLICAT で、ASSUMETARGETDEFS の使用時に MAXLONGLEN が機能しない

14850932 - WARNLONGTRANS パラメータ解析が破損する

15836642 - EXTRACT が圧縮された表で異常終了するが、オブジェクト ID が DB のオブジェクトを示さない

14792875 - APPSIT: STD::MAP 内の無限ループでオブジェクト名の処理時にメソッドが検出される

14059898 - FORMATSQ ORACLE パラメータによって互換性のある日付列および時間列が変換されない

14850776 - EXTRACT がエラー 600 で異常終了する: VAM クライアント・レポート
<[MSSQLVAM::CBACKUPLAYOUTNATIVE

14788487 - EXTRACT が「OGG-01937 NOT CONFIGURED TO CAPTURE CHANGES」エラーで異常終了する

14756392 - ポンプ・プロセス/FORMATASCII (ASCII 証跡/監査): VARCHAR2 の末尾にある NULL が除去される

14766522 - 1 つのノードが停止した状態で作成された 4 ノードの RAC EXTRACT で、NO の場合にスレッドが処理されない

14781889 - 未使用の列がある 2 つの表で EXTRACT の起動に 10 分かかる

14702344 - UPDATEROWEXISTS の起動時に、CDR REPLICAT が有効なエラーなしで異常終了する

14711138 - REPLICAT が SQL エラー 1064 で異常終了する

14483253 - EXTRACT が「OGG-00368 ALREADY SPECIFIED COLUMN LIST FOR CURRENT TABLE」で失敗する

14671584 - 列型が ENUM である場合に MYSQL から ORACLE へのレプリケーション・エラーが発生する

14154876 - EXTRACT で "INSERT /*+APPEND*/ INTO...SELECT * FROM .." が取得されない

バージョン 11.2.1.0.4_01 - 2012 年 10 月 30 日

14686349 - EXTRACT が「GGREALLOC ATTEMPTING TO ALLOCATE -29,478 BYTES WITH REALLOC」で異常終了する

14745617 - ファンクション・ベースの索引および BATCHSQL:
DBMETA_GET_UNIQUE_KEYS / OGG-00660

14104706 - TRAILCHARSET を指定すると、REPLICAT が起動しない

14709350 - BATCHSQL および BATCHSQL (NOCHECKUNIQUEKEY) の使用時に REPLICAT がハングする

14652024 - EXTRACT EA を起動できない

14038568 - SQLMX EXTRACT が異常終了する: TCP/IP エラー 4127 (接続拒否)。

バージョン 11.2.1.0.4 - 2012 年 10 月 15 日

14598824 - データストアで BDB0060、BDB1581、BDB1582 のエラーが発生する

14060642 - OGG DDL トリガーにより、DDL が過度に遅い

- 14238766 - REPLICAT によって生成された SQL*LOADER 制御ファイルに日付書式が含まれない
- 14324759 - DBOPTIONS NOCATALOGCONNECT の使用時に EXTRACT が異常終了する
- 14401436 - REPLICAT が MYSQL SQL エラー1048 で異常終了する
- 14251577 - OGG V11.2 で LOGDUMP がコア・ダンプを生成する
- 13686575 - 証跡ファイルを開くと、LOGDUMP がクラッシュする
- 14605919 - 誤解を招くエラー「OGG-01091 UNABLE TO OPEN FILE」が表示される
- 14512053 - ADD TRANDATA および INFO TRANDATA で異なる結果が表示される。
- 14579596 - EXTRACT が誤った日付を読み込む
- 14526166 - JAGENT の起動時に「BDB1507 スレッドが Berkeley DB ライブラリで終了しました」が発生する
- 14191835 - チェックポイントの移動後に、EXTRACT が異常終了し、コアが生成される
- 14515231 - INFO <EXTRACT>統合取得モードで誤ったラグが表示される

バージョン 11.2.1.0.3 - 2012 年 8 月 29 日

- 14462688 - EVENTACTIONS (SHELL, VAR)が機能しない
- 14481659 - REPLICAT が「OGG-00423 COULD NOT FIND DEFINITION FOR DBO.COMPOUND_CODE」で異常終了する。
- 14481791 - EXTRACT が「OGG-01414 CACHMGR - TRAN ID - 0 LENGTH MEMTRAN - 0X00002AA」で異常終了する
- 14383754 - SQLEXEC で返された RAW データ型が COLMAP で正しく割り当てられていない
- 14373314 - V11.2 OGG の EXTRACT で削除する列値の一部が取得されない。
- 14333745 - PL/SQL を使用する DDL アップグレード・スクリプト(ULG.SQL)が ORACLE 10G で続行される
- 14348229 - REPLICAT がパブリック・シノニムのコンパイルの変更時に ORA-00922 で異常終了する
- 14351286 - EXTRACT により、コミットされた LOB トランザクションがリカバリ中に COM に保存され、ディスクのページングの原因になる
- 14349435 - REPLICAT が SUPPRESSTRIGGERS DEFERREFCONST の順序に基づいて発行する
- 14348664 - SOURCEDB CALY_PSO のように、データベース名にアンダースコアが使用されていると、SYBASE で DBLOGIN が失敗する
- 14233478 - IC EXTRACT を開始タイムスタンプで変更できない
- 14059551 - GoldenGate for DB2 の EXTRACT が「INVALID DECIMAL DIGITS」で異常終了する

- 14300575 - DB2 FOR Z/OS から ORACLE へのレプリケーション - EXTRACT が証跡内のレコードの複製を再開する
- 13977090 - 11.2.1 の REPLICAT が、「OCI ERROR EXECUTING ALTER SESSION DISABLE PARALLEL DML」で異常終了する
- 14249192 - DDL の変更時に EXTRACT がクラッシュする
- 14256025 - SETENV の使用時に REPLICAT MACRO の問題が発生する。旧バージョンでは問題なく機能します。
- 10364057 - GOLDENGATE DELIVERY FOR DB2 - REPLICAT が「GGG エラー 2009 DDL NOT SUPPORTED」で失敗する
- 12859529 - OGG-00542 予期しないスレッド・ライブラリの失敗。エラー・コード 22 (無効な引数)
- 14198836 - TRACETABLE を使用している DML を無視できない
- 14222287 - @GETENV DELTATSTATS で有効な値が返されない
- 14238473 - EXTRACT で 1 つのスレッドからデータを読み取れない
- 14158453 - 表に NOLOGGING が指定されていると、強制ロギングが有効化されていても EXTRACT が異常終了する
- 14138797 - CDR が構成されていると、REPLICAT の統計に前のレコードが含まれない
- 14191835 - チェックポイントの移動後に、EXTRACT が異常終了し、コアが生成される
- 14170685 - OGG V11.2.1 REPLICAT がエラーなしで失敗する
- 13563425 - EXTRACT で、空間索引の作成から 2 次 DDL が取得される
- 13966860 - SQL SRV による削除後に、EXTRACT.EXE が原因でデータベース・ファイルを削除できなくなる
- 14157343 - WINDOWS サービスから MANAGER を再起動すると MGR.RPT がローテーションされない
- 13036249 - RAC でインスタンスが停止している際に作成されると、EXTRACT がスタックする
- 14155040 - REPLICAT のレポートに「ALTERNATIVE FORMAT DATA FOUND (CODE = 33)」と表示される
- 13961123 - 11.2 の証跡の処理時、FORMATASCII/FORMATXML/FORMATSQL がポンプで機能しない
- 13849818 - GG のインストール・フォルダにあるファイルがすべて削除される
- 14142903 - ファイルへの書込みバイト数に関する EXTRACT の変更可能なパラメータ
- 11827736 - ALO-- EXTRACT でアーカイブ OG ファイル形式の %D が認識されない
- 14149365 - DB2 の EXTRACT が「OGG-00785 ROW IMAGE DOES NOT MATCH TABLE」というエラーで異常終了する
- 14135898 - 統合取得モードでの EXTRACT の登録が OCI エラー 26655 で失敗する

14152822 - REPLICAT が進行せずにハングする

14016825 - EXTRACT が「OGG-01074 INVALID CASE STATEMENT, VALUE 0 IN SETLOBRECORD」で異常終了する

13865837 - REPEROR 247 が GG 11.1.1.1.1 および SYBASE 15.0.3 で機能しない

13393339 - EXTRACT で VARCHAR2(25 CHAR)列に不適切なデータが取得される

11841862 - EXTRACT の大きなファイルの表領域の ROWID の再構築が誤っている可能性がある

バージョン 11.2.1.0.2 - 2012 年 7 月 31 日

13961123 - 11.2 の証跡の処理時、FORMATASCII/FORMATXML/FORMATSQL がポンプで機能しない

12859529 - OGG-00542 予期しないスレッド・ライブラリの失敗。エラー・コード 22 (無効な引数)

14170685 - OGG V11.2.1 REPLICAT がエラーなしで失敗する

14168792 - REPLICAT が進行しない(OCI の例外処理の問題か?)

14147124 - MANAGER がサービスとしてインストールされている場合、JAGENT が起動しない

14110502 - XMLTYPE を使用する場合、EXTRACT(データ・ポンプ)が OGG-00868 で異常終了する

14125044 - 11.2.1.0.1 での EXTRACT MACRO の解析の問題(11.2.1.0.0 では正常に動作する)

14152822 - REPLICAT が進行せずにハングする

14149708 - REPLICAT が OGG-00446 で失敗する(再起動すると、しばらく動作する)

14149387 - GSI_AB02 REPLICAT がエラーOGG-00446 で異常終了する

14149393 - REPLICAT が異常終了するが、RPT ファイルが不完全

14092766 - GOLDENGATE でビューを初期ロードのソースとして使用できない

14049976 - REPLICAT の異常終了の問題 - 証跡ファイル内のレコードの重複(EXTRACT は正常に停止)

14111995 - REPLICAT が新規 GGS_CHECKPOINT_LOX 表の制約エラーで失敗する

14110502 - XMLTYPE を使用する場合、EXTRACT(データ・ポンプ)が OGG-00868 で異常終了する

14104052 - OGG V11.2 REPLICAT がエラーなしで異常終了する(REPLICAT V11.1 は正常に動作する)

13520711 - エラーOGG-01028 ORA-28360: セキュリティ・モジュールの内部エラー

13996125 - EXTRACT エラー「メタデータ・プロパティ
DDL_MD_COL_HASNOTNULLDEFAULT が見つかりません」

- 14081312 - REPLICAT がエラー・メッセージ「チェックポイント表に NULL を挿入できません」で異常終了する
- 13963068 - コメント付きの行がその前にあると、REPLICAT の DDL パラメータが機能しない
- 13840207 - GGSERR で EXTRACT がメッセージを表示せずに異常終了する
- 14049976 - REPLICAT の異常終了の問題 - 証跡ファイル内のレコードの重複(EXTRACT は正常に停止)
- 13898457 - DDL セッション・リストのクリーンアップでセッションが途中で削除される
- 14020920 - 更新されていない場合でも EXTRACT が ADT 列値を取得する
- 13588006 - EXTRACT がハングするが、再起動は行える
- 13795120 - EXTRACT で IOT 更新からの変更が見つからない
- 13796330 - DATABASE エラー -6706 ([TERADATA]。文字列に解析できない文字がある
- 13263078 - VERIDATA V3008 NSK ENSCRIBE 相対ファイルの比較で行が比較されない

バージョン 11.2.1.0.1 - 2012 年 5 月 7 日

- 13846553 - 大量のシーケンスをフラッシュした後で EXTRACT が非常に遅くなる
- 13830145 - REPORTROLLOVER との競合により、証跡ファイルが SQLEXEC ログ・メッセージで破損する
- 13775124 - 圧縮された表を更新する際に MSSQL EXTRACT が異常終了する
- 13636576 - REPLICAT で @GETENV ("LASTERR", "DBERRMSG") が正常に動作しない
- 13623775 - DB2LUW XML 列を EXTRACT で無視できる
- 13560335 - WARNLONGTRANS SKIPEMPTYTRANS により EXTRACT が異常終了する
- 13530053 - EXTRACT が警告「OGG-00720 バイトが ARCH にフラッシュされるのを待機しています」でハングする
- 13520711 - エラー OGG-01028 ORA-28360: セキュリティ・モジュールの内部エラー
- 13498907 - MEMPOOL の合計メモリーがレポート・ファイルに間違って表示される
- 13497923 - SYBASE EXTRACT が「OGG-00868 内部データ型を CHAR に変換できません」で失敗する
- 13431884 - OGG 11.1.1.1.2 ビルドへのアップグレード後にパフォーマンスが低下する
- 12914602 - 定義ファイルの UCS2 列が REPLICAT によって認識されない

11801306 - 10.4.0.33 から 11.1.1.0.8 への OGG のアップグレードで EXTRACT が異常終了する

11061438 - REPLICAT PURGEOLDEXTRACTS が-000001 から開始する証跡をパーズしようとする

9969804 - REPLICAT の異常終了: 不正な列長(1502), 許容される最大の長さは 1500 です。

9669344 - サーバー・クラッシュ後にポンプ・チェックポイント RBA がローカルの TRAILFILE サイズより長くなる

バージョン 11.2.1.0.0 - 2012 年 2 月 9 日

初版

My Oracle Support の利用

My Oracle Support を使用して、顧客、パートナー、オラクル社の社員が報告したナレッジ・ソリューション、回避策、その他の情報を見つけることができます。My Oracle Support で、サービス・リクエストをオープンすることもできます。サービス・リクエストを解決するためにパッチが必要な場合、My Oracle Support からパッチをダウンロードする方法が指示されます。

注意: Oracle GoldenGate を購入し、販売代理店からサポートを受ける場合は、My Oracle Support からサービス・リクエストを作成せず、その代理店に問い合わせてください。

Oracle GoldenGate のナレッジ・ベースを表示する手順

1. <http://support.oracle.com> にアクセスします。
2. 言語を選択し、電子メールと Oracle パスワードでログインします。
3. 「ナレッジ」タブをクリックします。

次の操作が可能です。

- 「製品を参照」に「Oracle GoldenGate」と入力するか、「ナレッジの参照」から「ミドルウェア」→「ビジネス・インテリジェンス」→「GoldenGate」を選択して、Oracle GoldenGate のナレッジ・ベースを参照します。
- 特定のトピックを検索するには、「ナレッジ・ベースの検索」に検索する語句を入力します。必要に応じて、「検索の絞り込み」の下の「製品カテゴリ」オプションを使用して、結果の範囲を Oracle GoldenGate チケットのみに絞り込みます(「ミドルウェア」→「ビジネス・インテリジェンス」→「GoldenGate」)。必要に応じて他のオプションを使用します。
- 「検索の絞り込み」は、検索の絞り込みを行うたびに縮小または展開表示され、必要な場合は、その後の操作のために絞り込みオプションおよび結果が毎回リフレッシュされます。

My Oracle Support に関するヘルプが必要な場合は、アプリケーション・ウィンドウの上部にある「ヘルプ」をクリックします。

サービス・リクエストのオープン手順

1. 「サービス・リクエスト」タブをクリックします。
2. 「SR の作成」をクリックします。
3. 必要に応じてアプリケーション・ウィンドウの上部にある「ヘルプ」を参照しながら、フォームに記入します。